

るのほな

編集発行者
千葉大学医学部
るのほな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
るのほな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp
HP : https://www.inohana.jp/



千葉大学医学部同窓会報 第190号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

会長挨拶 千葉医学…温故創新

るのほな同窓会長 吉原俊雄 (昭53)



7月に第189号会報とともに記録DVD「千葉大学医学部旧本館・85年の記憶」のご案内が同封されました。令和6年に150周年を迎える医学部において旧本館(旧病院)は精神的支柱となる建造物であることが実感されます。現役の同窓生もこの150年近い歴史の中の一コマであり、次世代の同窓生が臨床、研究、教育、行政など多方面に渡って新たな歴史を作っていくはずです。多くの先達の努力と功績は、亥鼻台で学ぶ学生、医学部附属病院・関連施設勤務の先生、他大学や他都道府県で活躍の先生、他大学卒業後本学に勤務される先生、皆等しく千葉医学の伝統を受け継いでいます。創立150周年を迎えるこの時期に同窓会長、同窓会役員の仕事を

させて頂くことは光栄であり、役員一同身の引き締まる思いで活動しております。会報190号受領時に、まだ記録DVDをご覧になっていない先生もおられると思います。DVDより一部写真を抜粋し紹介いたします(2面に掲載)。是非この記録映画をお手元に置かれることを願っております。



DVD VIDEO 千葉大学医学部旧本館 85年の記憶



千葉大学医学部旧本館 85年の記憶



千葉大学医学部旧本館
85年の記憶

令和3年10月8日午後7時閉館
85年の歴史に幕が下ろされた

千葉大学医学部旧本館が85年の歴史に幕を下ろすこととなり、るのほな同窓会はメモリアル事業の中で、その保存について4年に渡り議論を重ねてきた。「旧本館の記憶を永遠のものにするための映像が残す」それが同窓会役員の間で定まった。旧本館に刻まれた千葉医学の伝統は今も私たち同窓の体に刻々と受け継がれている。完成した記録映画が、先人たちの築いてきた伝統を未来へと継承していく一助となることを祈念する。

千葉大学るのほな同窓会 16代会長 吉原俊雄 (昭和53年卒業)

企画 千葉大学るのほな同窓会
制作 WAKE UP LAND

千葉大学るのほな同窓会 〒260-0856 千葉市中央区美土町1丁目B-1

50min 画面16MPEG-2 COLOR 16:9 複製可能 ©2022 WAKE UP LAND MADE IN JAPAN

非売品

紙面紹介

故奥井 勝二先生(昭28)ご遺族 奥井 泉様 三千万円

ありがとうございます。

会長挨拶	19
DVD制作	15
特別講演	13
るのほな同窓会賞	12
人事異動	6
叙勲感想	4
各地るのほな会	1
日本薬理学会年会	1
研修プログラム	1
研修医だより	1
タッチパネル	1
学内情報	1
課外活動団体だより	1
著書紹介	1
会員から	1
欧州医学史巡り	1
雑学雑談	1
地区るのほな会報	1
編集後記	1

お知らせ

旧本館記録DVD作成にご協力いただいた前東京女子医科大学消化器外科山本雅一教授は、中山会宇都宮記念病院院長としてご活躍ですが、7月には中山恒明記念館を完成させ、今秋には一般公開予定とのことです。女子医大における中山先生ゆかりの手術器具、写真その他貴重なものを移送し展示されるとのことです。

るのほな同窓会への寄附



眼科実習



手術室実習



手術室実習2



戦時中



消化器外科医 中山恒明先生 (1910~2005)



組織実習



外科医 鈴木五郎先生 (1898~1990)



精神科医 佐藤壹三先生 (1921~2017)

(千葉大学医学部 旧本館 DVDより)

千葉大学医学部旧本館が85年の歴史に幕を下ろすことになり、るのはな同窓会はメモリアル事業の中で、その保存について4年に渡り議論を重ねてきた。「旧本館の記憶を永遠のものにするため映像で残す」それが同窓会役員の総意だった。旧本館に刻まれた千葉医学の伝統は今も私たち同窓の体に脈々と受け継がれている。完成した記録映画が、先人たちの築いてきた伝統を未来へと継承していく一助となることを祈念する。

千葉大学のはな同窓会 16代会長 吉原 俊雄 (昭和53年卒業)

(千葉大学医学部 旧本館DVD 裏表紙より)

ドキュメンタリー 「千葉大学医学部旧本館85年の記憶」 の制作にあたって

副会長 栗原正利(昭54)



2021年10月8日千葉大学医学部旧本館は85年の歴史に幕を降ろした。

千葉大学ゐのはな同窓会では、済陽高穂前会長の時代から医学部旧本館閉鎖にあたり、メモリアル事業として旧本館の処遇を検討してきた。続く吉原俊雄会長のもと、旧本館を映像の形で残す具体策が決まった。ZEH2のドキュメンタリー制作を専門とする新倉美帆ディレクターを招き、「千葉大学医学部旧本館85年の記憶」と題して制作することとなった。2021年4月から撮影が開始され、2022年7月にドキュメンタリー作品が完成した。実に15か月をかけたこととなる。最終的に次のような内容となった。

1. すべて4Kで撮影を行い50分のドキュメンタリー作品とする。
2. 5分のプロモーションビデオを作り同窓会HPや各地の同窓会HPにポストする。
3. 50年後100年後のゐのはな同窓会が旧本館映像を利用できるように、150分のアーカイブスを4Kで保存する。
4. 俳優の草刈正雄さんと伊藤洋三郎さんにナレーションをお願いする。
5. DVDは販売形式をとらず、ゐのはな同窓会へのご寄付の返礼品として差し上げる。

であるが、計画は昭和2年に始まった。すなわち歴史資料は95年前に遡る。その当時の資料が存在するのかわからないか。あればどこに保存されているのか。皆目見当がつかないところから出発であった。

撮影開始の数か月後、幸いにも、偶然に建設当時の資料が旧本館倉庫の片隅に眠っているのを発見することができた。建設当時の設計図・平面図・内装仕様書・会議議事録また戦時中の古記録や金属供出のリストなども出てきた。これは千葉大学施設環境部の三好聖子事務官のおかげである。そして長年にわたり旧本館の管理人を務めた花澤富夫氏の存在も大きい。旧本館の病院時代の内部構造を知る生き字引的存在であった。発見された資料と彼の案内で旧本館の構造が詳細に把握できた次第である。お二人の協力なしでは今回のドキュメンタリーが完成しなかったと言ってもよい。その他、実に多くの諸先輩や関係者が快く協力してくれたことに感謝を申し上げたい。

今回の映像制作の企画プロデュースを任されたことは、私としても大きな勉強になった。すなわち、

①千葉大学医学部の歴史を詳細に調べる中で、150年の歴史の重さを知ることができた。現在の年齢になって知ったことも大きく、もつと若い時にこの役を引き受けていたならば関心を示さなかつたであろう。

②ドキュメント制作は事実を徹底的に追及して裏をとりにながら進めてゆく。新倉美帆ディレクターは調査に膨大な時間を費やしていた。そして実際にカメラを回した長さは、50分映像の30倍以上撮影していたと思われる。調査と撮影を並行してドキュメンタリーにふさわしい題材を取り上げてドラマを作り上げてゆく手法である。さらに制作スタッフとして、ZEH2のドキュメンタリー部門ではトップクラスの人達にお願いできたことも大きかった。人気カメラマンの小林正英氏と金尾礼仁氏、照明担当の工藤和雄氏、音声担当の塚越貴大氏、さらに特筆すべきはカリスマ的存在の音楽効果担当・黒田正信氏を招くことができた。あたかもZEH2の全国放送のドキュメンタリー制作を思わせる陣容が集まった。「類は友を呼ぶ」がごとく新倉美帆ディレクターの実力、総合プロデューサー金尾礼仁氏の献身的な

努力によるところが大きい。編集作業はおよそ2週間、連日徹夜で行なわれた。編集終了後に音楽を、最後にナレーションを入れてテロップを挿入する。私たちは草刈正雄氏、伊藤洋三郎氏のナレーションにも同席した。映像の世界に絶妙な口調で語りを入れ込む作業に、プロの技ありを肌で感じることもできたのである。映像は第八の芸術と言われている。制作の一部始終について、多くの専門家の知恵と才能を集めて制作するという総合芸術に身をもって体験できたことは幸運であった。

医学部旧本館は千葉大学の中で最も古く東洋一を誇ったシンボルの存在である。国力の増しつあった昭和初期の時代に国家予算をふんだんに使い設計者のほとぼしる意気込みを吹き込んだ建物であることが、今回の映像制作に参加してはじめてわかった。大学時代、ひたすら研究に勤しんでいた当時は建物に対して何の鑑賞もなかったことを今になって恥じている。この建物は病院建築史上エポックメイキングな建物であり、古びたと思わせない素材の力・デザインの力を備え時代の変遷に対応でき

る継続性を有しており、二度と建てることのできない歴史的建造物と言つてよい。昭和初期の公共建築はモダン建築の粋を極めた作品が多い。

旧本館は、解体も保存も未だ厳密には定まっていない。「登録有形文化財または重要文化財」級の価値があることは間違いない。利用され続ける建物であることを前提として将来設計を

考えることが、大学人・同窓会のありかたではないだろうか。また千葉市民・県民にとっても地元のシンボルの歴史建造物として誇りを感じてほしい建物である。この作品を見て、関係者には旧本館の保存・再利用の決断と実行を期待している。そのための映像制作でもあった。この映像が皆様の青春時代を思い出す東の間のイメージとなれば幸いです。

〈寄附金要綱〉

この作品は販売の形式をとらず、千葉大学ゐのはな同窓会の旧本館メモリアル事業に対して、3,000円以上のご寄附(但し寄附控除の対象外)をされた方に返礼品として1部お送りすることになっています。複数部ご希望の場合は、3,000円×希望数の金額をお振込みいただき、通信欄に希望数をご記入いただけますようお願いいたします。(例：9,000円振込み DVD3部希望)

頂いたご寄附はDVD制作費や、今後の企画に使用させていただきます。その他詳細はHPまたはゐのはな同窓会事務局までお問い合わせください。

〈お問合せ先〉

千葉大学ゐのはな同窓会事務局
Tel : 043-202-3750 e-mail : info@inohana.jp

あのはな同窓会総会 特別講演 老化細胞除去ワクチンの開発

順天堂大学 大学院医学研究科 循環器内科
教授 南 野 徹 (平元)



加齢ストレスによるゲノム損傷の結果、組織に老化細胞が蓄積する。老化細胞は炎症性Senescence-associated secretory phenotype (SASP) 因子を分泌することで免疫系を活性化させる。その結果、老化細胞は除去され、組織の恒常性が維持されると考えられている。一方、何らかの原因により、老化細胞が免疫系による除去から免れると、老化細胞の蓄積が遷延し、SASP因子による慢性炎症が惹起され、加齢関連疾患の発症・進展につながると想定されている。実際これまで我々は、病的老化を促進するメカニズムとして、組織に蓄積する老化細胞の役割について注目し研究を進め、その関与を示

唆しつきた (Circulation 2002, 2003, 2006, EMBO J 2004, Nature 2007, Nat Med 2009, Cell 2012, Cell Metab 2012, 2013, 2014, Cell Rep 2014, 2018, Nat Commun 2015, Nature Aging 2021)。しかしながら、細胞老化シグナルを直接抑制することは、がん化につながるため臨床応用するのは困難である。最近老化細胞除去 (Senolysis) によって病的老化形質を改善できることが示唆されているが、その治療方法においては off-target 効果など問題点が多い。そこで我々は、老化細胞において特異的に発現している分子 (老化抗原: Seno-antigen) を同定し、それらを標的とする治療を開発を行うこととした。まず、老化血管内皮細胞における網羅的 Omis 解析を行ったところ、特に老化形質の強い (SASP 因子や p16) の発現の高い) 老化細

胞において特異的に発現している候補 Seno-antigen をいくつか同定した。その中で、ヒトの加齢と関連が示唆されている Senescence-associated glycoprotein (SAGP, 別名 GPNMB) についてまず検討を進めたところ、SAGP は細胞膜やライソソームに局在する膜分子であることがわかった。また、SAGP は分裂老化に伴うライソソーム機能不全を改善すること、老化細胞における Survival factor として働いていることがわかってきた。そこで我々は SAGP が Senolysis の標的となりうることを考え、SAGP 遺伝子座を含む BAC clone に DTR-Luciferase を導入した Transgene を用いて、SAGP 陽性老化細胞を標識しつつ除去できるマウスモデルを確立した。その結果、SAGP 陽性老化細胞を除去することによって、高脂肪食負荷による糖代謝異常やインスリン抵抗性の可逆的な改善や動脈硬化プラークの可逆的な退縮が見られることが明らかとなった。さらに、SAGP 陽性老化細胞を除去できるように設計したワクチンを開発し、肥満マウスや高齢マウスに投与したところ、高カロリー食誘導性の代謝異常や動脈硬

化の改善ばかりでなく、加齢に伴うフレイルの改善が得られること、既存の老化細胞除去薬でみられる副作用 (血球減少など) が認められなかった。以上のように、今回、蓄積した老化細胞を除去できる様に設計した「老化細胞除去ワクチン」の開発に成功し、Nature の姉妹誌に発表することができた。今回の研究成果に対する反響は、我々が予想していた以上に大きなものであった。発表の翌日には NHK ニュースにて報道され、朝日新聞や読売新聞をはじめとした多くのメディアに取り上げられ、Yahoo サイトのトップにも取り上げられた。The Japan Times での報道を見たという海外のテレビ・新聞の取材が大変多かったことにも驚いた。さらに、国内や米国だけでなく、中東や欧州のベンチャーキャピタリストから投資のご提案もいただいたので、起業化の計画を進めている。私自身、CJ や Nature、Nature Medicine などの Journal に研究成果を発表してきた経験があるが、今回の様な反響をいただいたことはなかった。今回の経験をを通じて、この研

究の社会実装の重要性について、認識を新たにしているところである。先生方におかれましては、今後の研究の発展について、暖かく見守っていただけると大変幸甚に存じます。

若手スピーチ

行政での経験をどのようにアカデミアに活かすか

千葉大学医学部附属病院 臨床試験部

助教 黒川 友哉 (平23)



同窓会総会の「若手スピーチ」では私が卒業後に学んだ行政の視点から、千葉大学に還元すべき知見、目指したい今後の臨床研究支援体制などについてお話しさせていただきます。私は2011年に千葉大学を卒業後、2年間の初期研修を終え、母校の耳鼻咽喉・頭頸部外科に入局させていただきました。耳鼻科医である私が現在研究支援部門に籍を置いているのは、私にとって大きな転機となった PMDA (独立行政法人医薬品医療機器総合機構) での経験が影響してお

ります。PMDA は、厚生労働省所管の独立行政法人で、国内未承認、あるいは適応外の医薬品や医療機器などの承認審査を中心に、薬事行政の実働部隊として安全性調査、健康被害救済業務として開発相談などを行っております。2016年からの PMDA 出向中は抗がん剤の承認審査を中心に、医療機器、再生医療等製品の審査や健康被害救済業務など幅広い業務に携わらせていただきました。薬事に関する様々なルールについて学んだことはもちろんですが、「新薬承認」という未知の課題解決に向けた多職種連携によるアプローチ方法や姿勢も大きな学びでした。新薬承認に多職種連携の

チームプレーが必要ということは、当然その臨床試験計画や運用段階においても多職種の協働が不可欠です。臨床研究、臨床試験に関するルール・規制は研究方法、情報技術の発展と共に複雑、厳格になりつつあり、一研究者が臨床・教育で忙殺されながら臨床研究を行うには限界があります。しかしそれでも医療イノベーションの源泉である臨床現場から希少疾患や難病、真の患者ニーズに応えられるエビデンスを発信するためには、「よきパートナー」が必要不可欠と考え、2020年から臨床試験部に赴任させていただきました。研究者にとつて頼れるパートナーとなるよう大学での研究支援基盤の整備、運営に精進してまいりますので今後とも皆様からのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



るのほな同窓会賞

社会貢献賞

るのほな同窓会社会貢献賞を受賞して

NPO法人千葉性暴力被害支援センターちさと

理事長 大川 玲子(昭47)



去る6月11日のるのほな同窓会総会で、社会貢献賞を受賞した。受賞楯の銘文には「性暴力被害者へのワンストップサービスセンターの設立と運営」とある。まずは我が「NPO法人千葉性暴力被害支援センターちさと(以後ちさと http://chissatsakura.jp)」のスタッフと関係者に感謝と喜びの声を伝えたい。また受賞にご尽力いただいた同窓会諸氏に御礼を申し上げる。この活動は、昨年のるのほな同窓会総会の、活躍する女性会員特集でも取り上げられ、これを機にるのほな同窓会には賛助会員になって頂いた。

「ちさと」は2014年に国立病院機構千葉医療センターを拠点として設立した、性暴力被害女性の心身の回復を目指す支援団体である。月曜から土曜日までの電話相談、面接相談、弁護士相談、心理カウンセリングなどと、24時間体制の医療や緊急避妊、身体からの証拠採取を含む緊急支援を、支援員と婦人科医師とで行っている。内閣府の要請で2018年までに全都道府県に一つのワンストップセンターができた。これらをつなぐ全国連絡会は、互いの情報交換、研修会、政府への要望と情報提供をしている。

「ちさと」の支援員は、計6日間の養成講座を受講したのち、実地研修をへて採用となる。実際の被害者対応で知るべき情報、ルールは驚くほど多いが、仲間にも助けられ、ケース検討会

Advertisement for Chisato NPO, including contact information and a list of services.

研修会などで経験値を重ねる。支援で大事なことは「被害者に二次被害を与えない」ことである。これは性暴力が、被害者が非難されがちな唯一の犯罪という所以である。支援員といっても社会人の一人であり、内なる被害者批判から完全に自由ではない。「どうして3次会なんかについて行ったの?」「そんな服を着ていたら」と言っているようなものではない。「これを、どんな状況でも殴る蹴るの暴力をされた被害者には言わない。裏返せば、性暴力被害者も自分に非があるように感じて誰にも言えず、生涯の秘密にしてしまう。支援員の言うべきは「良く話してくれました」「あなたは絶対に悪

くない。悪いのは加害者です」だが、どんなケースにも心からこれを言えるには、終生の研鑽が必要である。受賞者の弁としては僭越であるが、こうした活動を医師・医学者の団体が取り上げ顕彰するのは素晴らしいと思う。内閣府は、男性の性暴力被害者支援にも取り組む要請をしている。男性の性被害は少なく無く、より屈辱的でより開示が困難な傾向にある。一方被害者心理は驚くほど女性に似ていることを、最近の研修会で学んだところである。

終わりに同窓会諸氏のご支援を「ちさと」を代表してお願いいたします。

学生スピーチ 線維芽細胞由来液性因子による シンドビスウイルスの腫瘍融解抑制

矢田部 沙羅(医6)



これは一つには、ウイルスが宿主細胞へ遺伝子を効率的に転送できるという特性を活かして、ウイルスをベクターとして自殺タンパク質や腫瘍抑制タンパク質、サイトカイン等をコードする遺伝子を腫瘍細胞に導入する治療法がありますが、ウイルス感染そのものががん細胞を特異的に融解する効果も活用が期待されています。がん細胞に特異的なウイルスの複製パターンからがん細胞の特性を理解することは、ウイルス療法の新たなモダリティにつながる可能性があるため、重要なことだと考えます。

このような機会をいただいたことを嬉しく、光栄に思います。分子ウイルス学研究室では、以前の研究でシンドビスウイルスが腫瘍融解ウイルスであることを見つけています。今回、iPS細胞と正常ヒト細胞を用いた比較実験からは、iPS細胞でシンドビスウイルス感染初期の抗ウイルス応答が脆弱化していることが分かり、この腫瘍融解活性を支える主要なメカニズムである可能性が示唆されました。

実は、ウイルスの多くは oncogene であることが知られているのですが、その機構の多くは解明されていません。がんとの闘いの中では、ウイルスをがんの治療に用いるウイルス療法という考え方が生まれました。

長賞受賞、今回の発表へと繋りました。これは、千葉大学の諸先生方から、足りなかったはずの2年を埋めて余りあるほどの愛情を注いでいただいたことに他ならず、深く感謝すると共に、千葉大学というアイデンティティを得たことを改めて誇りに思います。諸先輩方の背中を追い、私自身もロールモデルとなるように精進して参ります。



就任挨拶

千葉大学

子どものこころの発達教育研究センター

認知行動療法部門 教授

大島 郁葉 (早大・平14)



令和4年(2022年)7月より、子どものこころの発達教育研究センターの教授として奉職することになりました。大島郁葉(ふみや)と申します。私は臨床心理士、公認心理師として、自閉スペクトラム症とメンタルヘルスの関連を心理社会的な観点からの観察研究や、認知行動療法を用いた介入研究を行っております。私は大学院修士課程修了後、しばらく大学院の小児科神経心理外来、精神科クリニック等で臨床業務を行ってまいりました。30歳を過ぎてから、千葉大学大学院医学研究院先端生命科学において、博士課程に入学し、出産などを経りましたが、早期修了しており

ます。その後、学術振興会の特別研究員(DC・PD)を経て、2016年に同センターの特任助教となりました。このようにある意味、セカンドライフとして研究職に就いたわけですが、環境に恵まれて、これまで子育てをしながらも、どうか研究活動を続けております。私のような医学系出身でもない女性の研究者が、鼻キャンパスにおいて教授になるということはおそらくかなり珍しいことであると思っておりますので、この場を借りてセンター長である清水栄司教授を始めとした選考委員会の先生方の柔軟なお考えに感謝申し上げます。日本ではまだ女性研究者や大学教員は少なく、特に医学薬学系といった理系においてははなおさら少なくあります。そもそもジェンダーギャップが2022年の現在においても約150か国中116位というデー

タから見ても、女性がオピニオンリーダーの地位に就くことは「珍しい」「違和感のある」ことであると思えます。私の場合は、千葉大学医学薬学府内のキャンパス内の教授としては、医師ではないこと、男性ではないこと、のダブルマイノリティ者ではありますが、それはある意味において権威的になることの抑止力になり、社会的公正の理念に誠実であり続ける機会に恵まれた存在であると考えております。さらには、後続する女性研究者のロールモデルになり得るかも知れないと期待しております。

人事異動

千葉大学において、今後も、幅広い人材が教員として登用され、柔軟で斬新性のある研究や教育がなされていくことを願っております。どうぞよろしくお願いたします。

教授
子どものこころの発達教育研究センター
大島 郁葉(早大・平14)
准教授
災害治療学研究所
大島 拓(平13)
(救急集中治療医学講師より)

所長
千葉大学災害治療学研究所
三木 隆司(昭63)
他大学教授
東京女子医科大学
循環器内科学
山口 淳一(平5)
病院長
量子科学技術研究開発機構
OST病院長
山田 滋(三重大・昭60)
千葉市立海浜病院
吉岡 茂(昭63)
その他
全国医学部長病院長会議会長
横手幸太郎(昭63)
神奈川県立がんセンター総長
古瀬 純司(昭59)

るのほな同窓会賞受賞候補者募集要項

第二八回(二〇二二年度)るのほな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。

- 一、受賞対象者
 - ① 社会貢献賞 本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。
 - ② 功 勞 賞 医学および広く文化の各領域において、千葉大学および千葉大学るのほな同窓会に多大の貢献をした者。
- 二、表彰
 - ① 社会貢献賞 (三件以内) 盾および賞金(総額三十万円以内)を贈呈します。
 - ② 功 勞 賞 (一件以内) 盾および賞金十万円を贈呈します。
- 三、応募方法
 - 所定の申請用紙により、二〇二二年十二月一日から二〇二三年一月三十一日まで申請して下さい。
- 四、受賞者の決定
 - 選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。
 - 審査結果は二〇二三年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、るのほな同窓会報に掲載します。
- 五、問い合わせおよび申請用紙請求先
 - 千葉大学医学部内、るのほな同窓会事務局
 - 申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。



Home coming day 2022

日時：R4.11.5(土)14:00~
場所：けやき会館

program

- ホームカミングデー・校友会紹介
- 学長動画メッセージ
- 千葉大学歌合唱
- 講演
デザイン・リサーチ・インスティテュート長 植田 憲教授
「墨田サテライトキャンパスを軸としたdriの挑戦：
生活の全てのシミュレートによるイノベーション創出」

千葉大学校友会では卒業生の皆様をはじめ、千葉大学を応援して下さる皆様へ情報発信を行うため、「千葉大学校友会Facebook」を開設していますので、ぜひ、フォローをお願いします。



愛知医科大学病院

救命救急科 高度救命救急センター

主任教授 渡 邊 栄 三 (平9)



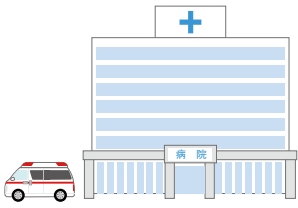
令和4年6月1日付で、愛知医科大学病院救命救急科主任教授、高度救命救急センター長を拝命しました。千葉大学の諸先生方に多大なるご支援賜りましたことにあためて深謝申し上げます。

私は、平成9年千葉大学医学部を卒業し、平澤博之先生(現名誉教授)が主宰されていた同附属病院救急部・集中治療部に入局し、多忙な研修の中で、医師として研究者としてのマインドを植え込まれました。その後、川鉄千葉病院外科や君津中央病院で臨床研修を終え、千葉大学大学院医学研究科で医学博士の学位を取得しました。テーマは、「重症患者のサイトカイン産生における遺伝子多型の関与」であり、徳久剛史先生(元学長)が主宰されていた分化制御学教室で指導を賜

り、救急領域で本邦初といえる臨床ゲノム医学研究を遂行しました(Crit Care Med 2005)。平成16年からWashington University (Wash U) 外科に留学し、米国集中治療医学会会長、外傷外科医、数理学者でもあるTimothy Buchman教授(現Emory University教授)と、その奥様にWash U 免疫病理学教授であったBarbara Zehnhauser教授に師事しました。またWash Uでは、敗血症研究の権威であるRichard Hotchkiss教授に指導を賜る幸運にも恵まれ、敗血症におけるオートファジーの関与を初めて報告しました。帰国後は、千葉大学救急集中治療医学に戻り、織田成人教授(現名誉教授)や疾患生命医学 幡野雅彦教授のご指導の下、後輩達を指導しながら研究を推進させました。現在は主に、敗血症のオミクス解析により新規バイオマーカーの探索を試みています。臨床では一貫して、救急蘇生治療から集中治療管

対応してきました。平成29年には東千葉メディカルセンターに救命救急センター長として着任し、消防との病院前救護や地域医療にも尽力してきました。災害対応としては、東日本大震災、関東・東北豪雨、熊本地震、令和元年房総半島台風といずれにもDMAT等の枠組みで現場派遣され、指揮・支援活動を経験しました。今般のコロナ禍まで続く苦境・二連の災害に際し、あらためて関係者各位にお見舞い申し上げます。そんな中で生まれたアイデアである、可搬式医療用コンテナ(CoMU[®])の開発は、AMEDのウィルス等感染対策事業に採択され、今後の社会実装を進めています。さてこの度着任した愛知医科大学病院は、今年創立50周年を迎えます。救急部門は初代教授の野口宏先生の下、愛知県第1号の救命救急センターとして昭和54年に開設されましたが、ドクターヘリでも有名で20年間の運営実績があります。平成27年には災害医療研究センターが設置され、今年には愛知県初の重症外傷センターとして指定されることも決まっております。今

後は、前教授の武山直志先生が取組んでこられた「侵襲後の免疫応答に関する研究」も昇華させ、医学生や大学院生に救急集中治療医学の魅力伝えてゆきたいと思っております。また千葉大学救急集中治療医学教室先々代より継承する、科学的根拠を基に一人でも多くの重症救急患者を救う「Academic Critical Care」を、この愛知の地で新しい医局員らと共に実践してゆく所存です。今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



千葉県こども病院

病院長 中 島 弘 道 (昭58)



令和4年(2022年)4月1日に、千葉県こども病院院長を拝命いたしました。これまで、おのほな同窓会の皆さまにはご指導、ご支援を賜り心より御礼申し上げます。

私は昭和58年に千葉大学医学部を卒業後、中島博徳教授の主宰されていた小児科に入局いたしました。患者を診る際の中島教授の幅広い知識に感銘を受け、小児を疾患単位でなく人間として総合的に診ていけると感じたことが小児科を選んだ大きな理由でした。入局後は県内の医療機関で小児科医としての研修を積み重ねていただき、大学では丹羽公一郎先生に小児循環器疾患を学びました。その後東京女子医科大学循環器小児科に異動し小児循環器の父とも言われた高尾篤良先生、中澤誠先生らにお教えいた

だき最新の先天性心疾患の臨床と基礎を研鑽することができました。1992年には新美仁男教授のもと千葉大学小児科に戻り、その後船橋市立医療センター、千葉市立海浜病院勤務を経て2002年に千葉県こども病院循環器に赴任いたしました。爾来多くの先天性心疾患の診療に携わり、心房中隔欠損のカテーテル治療も国内では早くから導入することができました。さて、千葉県こども病院は、1988年に開設された小児専門医療施設であり、全国14の独立型小児病院のひとつです。以来千葉県における小児医療の中心として、一般医療機関では対応の困難な小児疾患に対して専門的な診断と治療を行ってまいりました。なかでも新生児期に手術が必要な心臓疾患をはじめとして、小児外科、整形外科、形成外科、脳外科、泌尿器科、耳鼻科、眼科などの小児疾患手術の実績は県内随一であります。また小児がんや内分泌、代謝、膠原病、腎神経疾患等に対する先進的で積極的な治療にも力を入

れております。同時に母子保健、児童福祉にもかかわり、児童虐待事例への対応など小児を取り巻く困難な状況へも支援を行ってまいりました。最近では疾患を持ちながら成人になることも達への移行支援など、成人施設も含め県内他施設との連携も重要になっております。この2年は新型コロナウイルス流行の中、県内でも数少ない小児コロナ受け入れ病床を確保し対応する中で、本来果たすべき小児疾患の治療を制限し経営的にも苦しい状況ではありますが、今後も両者のバランスを模索しつつ小児専門診療維持に努めたいと考えております。現在、小児医療を取り巻く社会情勢は厳しく、少子化の一方で要医療支援児の増加、ひきこもり、経済格差による貧困、虐待の増加などが顕著になる中、弱者である小児を守るべき立場として職員一同これからも尽力していく所存です。今後ともご指導、ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。

千葉県循環器病センター

病院長 中村 精 岳 (昭和大・昭60)



千葉大学のはな同窓会の皆さま、今年の4月より千葉県循環器病センター病院長に就任いたしました中村精岳でございます。この度は諸先生にご挨拶させていただく機会をいただき大変感謝しております。千葉県循環器病センターは循環器系疾患の専門治療を行う県立センター病院として旧県立鶴舞病院を母体として、1998年2月1日に設立され、現在まで循環器系疾患に対する専門医療を行う施設としての使命を担ってまいりました。さらに、当センターは「鶴舞」という市原市南東部に位置し、茂原長生いすみ地域(山武長生夷隅2次医療圏の南半分)に隣接しており、これらの地域を合わせたいわゆる「中房総地域」において、地域医療も担っております。心臓血管系診療部門では内科系と外科系医師の双方

が常勤する24時間体制を整えています。病態に応じて内科的カテーテル治療と外科的手術治療がいつでも対応、協働できることで治療の安全性を高めている点が当センターの特徴のひとつです。心臓カテーテル治療部においてはTAVI(カテーテル大動脈弁植え込み術)やレーザーによるリド抜去治療等、最新の先端治療を行っており、低侵襲血管内治療部では大動脈ステント治療、下肢閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療、静脈瘤レーザー治療等を実施しております。

み重ねております。地域医療診療部門では消化器、呼吸器、糖尿病、腎臓などの内科疾患を中心に診療しており、人工透析室も有しています。外科では主に消化器疾患の手術を行っており、病院の特殊性から心臓血管系疾患を併せ持った患者さんが多いことが特徴です。他に小児科、耳鼻咽喉科、眼科、整形外科、皮膚科、形成外科、歯科中房総地域の住民を中

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構

QST病院

病院長 山田 滋 (三重大・昭60)



2022年4月1日付けで国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構(量研)QST病院長を拝命いたしました。量研の前身である放射線医学総合研究所(放医研)は、1957年に創立されました。2016年に日本原子力研究開発機構と再編統合され量研が発足しました。量研の英語表記はNational

心に診療を行っております。現在、COVID-19感染症の終息が見通せない中、病院経営の改善や医師の働き方改革による時間外勤務の縮小などを取り組んでいます。問題点も多く感じ取りの難しさをこの4カ月間で痛感しております。しかし、患者さんは待つてくれませんので全力で任にあたる所存です。今後とも諸先生方のご指導ご鞭撻を宜しくお願ひ申し上げます。

レントゲン研究室に所属し、2年間放医研で放射線生物研究を行い学位を取得し、その後千葉県がんセンター外科に勤務し、手術以外に胆管癌の腔内照射や術前や術中照射等の放射線治療も担当しました。その間、渡辺一男先生、浅野武秀先生、竜崇正先生はじめ2外科の先生にご指導していただきました。その後、1996年米国のNASA Johnson Space Centerで博士研究員として1年半宇宙放射線の研究に従事しました。1998年に帰国し、放医研に放射線治療医として就任し、消化器癌に対する重粒子線治療に従事しました。2017年には放医研重粒子線治療研究部長、2020年には量研QST病院副院長に就任しました。

勝教授、松原久裕教授、生水真紀夫教授、加藤直也教授、大塚将之教授、山口武人先生を始め多くの千葉大学の先生のご尽力の賜です。また、吉野一郎教授、市川智彦教授、岩立康男教授、宇野隆教授、花岡英紀教授、猪狩英俊教授にもお力添えをいただいております。当院の診療は横手幸太郎病院長を筆頭に千葉大の御協力により維持できていると言っても過言ではありません。

QST病院では新治療棟が建設され、スキヤニング照射法と回転ガントリ等の新しい技術を用いた最新の重粒子線治療装置が稼働しています。さらに腫瘍の特性に応じて様々な種類の粒子を組み合わせて照射するマルチオン照射法の実用化を目指し研究開発を行っています。これらの世界最先端の技術を用い、その有用性を、日本のみならず世界に示すことが我々の仕事です。そのためにはまず、日本で確実に普及させる必要があります。同窓会の皆様を中心に千葉県内の医療機関と連携して研究成果を早く、広く普及するために活動していくとともに、常に安全で専門性が高く、なにより患者本位の良質な医療の提供を目指していきたいので、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

叙勲、褒章その他祝事に関係され
た方は是非同窓会事務室までご一報
下さい。編集部でも絶えず注意して
おりますが、ニュースに接し得ない
事態もあります。お喜びはなるべく
早く、同窓の皆様にもお分けしたい
と思いますのでよろしくお願ひ申し
あげます。

千葉市立海浜病院

病院長 吉岡 茂 (昭63)



令和4年(2022年)4月より、寺井勝前院長(昭53)の後任として病院長を拝命いたしました。私は昭和63年に千葉大学医学部を卒業し、当時奥井勝二教授が主宰されていた千葉大学医学部第一外科(現臓器制御外科)に入局いたしました。4年間関連病院で外科の研鑽を積んだ後、宮崎勝名誉教授(昭50)が主宰されていた肝胆道研究室に所属し、肝切除後の肝酸素需給動態、肝静脈血酸素飽和度測定等の臨床的意義についての研究を行い学位を頂きました。平成8年4月に海浜病院に赴任当時、第一外科の先輩としては病院長の村上和先生(昭32)、診療局長の鍋嶋誠也先生(昭47)、外科部長の太枝良夫先生(昭53)、副部長の磯野敏夫先生(浜松医大・昭58)がおられ、外科手術について幅広くご指導いただきました。

た。

現在当院は293床、29診療科にて、地域周産期母子医療センター、地域小児センター、千葉県がん診療連携協力病院、地域医療支援病院、地域災害拠点病院、千葉県DMAT指定医療機関として千葉市西部の地域医療を担っております。胎児から高齢者まで切れ目のない医療の提供をモットーに、従来からの当院の強みである周産期医療、小児医療に加え、令和元年には救急科の織田成人前教授(昭53)に救急科を立ち上げていただき、現在では千葉市の救急医療の中核施設となっており、また、その後方支援診療科である総合内科、整形外科、脳神経外科等の整備を進め、がん診療も含めた高齢者医療の充実化を図っています。移行期医療は、国内ではまだ未整備な領域ではありますが、平成30年より成人先天性心疾患治療部を立ち上げ、成人先天性心疾患を中心とした移行期医療を提供しています。

当院は現在築38年が経過

しており、施設の老朽化が著しいため、療養環境、感染対策に配慮した新病院を幕張新都心若葉地区に建設する予定であり、2026

地方独立行政法人神奈川県立病院機構

神奈川県立がんセンター

総長 古瀬 純 司 (昭59)



この度、2022年4月1日付で神奈川県立がんセンター総長に就任いたしました。神奈川県立がんセンターは、横浜市中区でもやや内陸に位置し、横浜駅から相鉄線で10分強、華やかな横浜市イメージとは異なる住宅街の先に広がっています。

神奈川県立がんセンターは1963年に神奈川県立成人病センターとして発足し、がんの高度専門医療の重要性が高まる中、1986年に県立がんセンターとして改編されました。神奈川県のがん医療の中核的機関として診断から治療まで

年春の開院を目指しております。今後とも引き続き皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

がんの基礎研究ならびに臨床部門と緊密な連携をもとに臨床に直結した研究を行っております。最近では、2015年にがん専門病院としては世界初の重粒子線治療施設「TRACC」を開設、2019年にはがんゲノム診療センターを設置するなど、先進的ながん医療を進めています。

私は1984年千葉大学医学部を卒業し、当時の第一内科(奥田邦雄教授)に入局、大藤正雄教授のもと肝臓病をはじめとする消化器病学を学ばせていただきました。その後、1992年国立がんセンター東病院(現国立がん研究センター東病院)に立ち上げから勤務し、16年間肝胆膵領域がんの診療や臨床研究に従事してまいりました。2008年、杏林大学医学部腫瘍内科学を開設する機会をいただき、当時馴染みのない

腫瘍内科学という新しい講座の立ち上げと運営に悪戦苦闘の14年間でしたが、この3月無事退任いたしました。今回、縁あって神奈川県立がんセンター総長の職をいただいたところです。

振り返ると、千葉大学を離れてから、何度か新しい組織の立ち上げに携わる機会をいただき、大変ながらもワクワクした仕事ができましたし、事ある毎に千葉大学同窓の方々の大いなるご助力をいただき、心強く思ったものです。改めて心より感謝申し上げます。

今回、がん医療を専門とした仕事に従事してちょうど30年の節目に新しい仕事をいただきました。60年近くの歴史をもつ神奈川県立がんセンターですが、まだまだ発展途上にあります。これまでの経験を生かしつつも、新たな気持ちで神奈川県だけでなく日本のがん医療の進歩・発展に少しでも貢献できればと考えております。これからも千葉大学同窓の皆様とご一緒させていただきます機会も多いと存じます。引き続きご高配を賜りますようお願い申し上げます。

腫瘍内科学という新しい講座の立ち上げと運営に悪戦苦闘の14年間でしたが、この3月無事退任いたしました。今回、縁あって神奈川県立がんセンター総長の職をいただいたところです。

振り返ると、千葉大学を離れてから、何度か新しい組織の立ち上げに携わる機会をいただき、大変ながらもワクワクした仕事ができましたし、事ある毎に千葉大学同窓の方々の大いなるご助力をいただき、心強く思ったものです。改めて心より感謝申し上げます。

今回、がん医療を専門とした仕事に従事してちょうど30年の節目に新しい仕事をいただきました。60年近くの歴史をもつ神奈川県立がんセンターですが、まだまだ発展途上にあります。これまでの経験を生かしつつも、新たな気持ちで神奈川県だけでなく日本のがん医療の進歩・発展に少しでも貢献できればと考えております。これからも千葉大学同窓の皆様とご一緒させていただきます機会も多いと存じます。引き続きご高配を賜りますようお願い申し上げます。

The 77th Annual Meeting of
the Japan Society of Coloproctology

第77回 日本大腸肛門病学会学術集会

2022.10/14 Fri. ▶ 15 Sat. 幕張メッセ国際会議場

会長 | 幸田 圭史 帝京大学ちば総合医療センター外科 教授

副会長 | 鈴木 康夫 銀座セントラルクリニック 院長
東邦大学医学部 客員教授

小杉 光世 松戸市立総合医療センター



全国医学部長病院長会議会長

就任にあたって

千葉大学医学部附属病院長

横手 幸太郎 (昭63)



この度、全国医学部長病院長会議 (AIMC) の会長に就任いたしました。任期の2年間、全国82の国公私立大学の医学部長または医科大学長、そして附属病院長の先生方と、研究・教育・診療の諸課題や関連する重要事項について協議し、相互の理解を深めるとともに意見の集約を図り、わが国における医学ならびに医療の改善向上に努めてまいり所存です。すでに2020年より務めている国立大病院長会議の会長職との併任になります。

AIMCの発足は1967年に遡り、1970〜80年代には、香月秀雄先生や井出源四郎先生(いずれも当時の医学部長)も会長を務められていました。最近では、2001〜2002年に福田康一郎先生が会長

となり、モデルコアカリキュラムの作成など主に教育面で大きな実績を残されています。このようにこれまでは主に医学部長が、AIMCの会長職に就かれていたようです。これに対して、近年では、各種経営上の課題や2024年度に迫る医師の時間外労働の上限規制(通称「医師の働き方改革」)、新型コロナウイルスのパンデミックへの対応など、医療面での解決すべき課題が著しく増加していることから、前任の湯澤由紀夫藤田医科大学学長・病院群続括病院長に続き、今回、2代連続して病院長から会長が選任されたものと考えています。

日本は、少子超高齢社会を迎え、さまざまな環境の変化に直面しています。そのような中、千葉大学病院をはじめ、大学病院と医学部は、コロナ禍で大きな試練を経験するとともに、国民にとって無くてはならない存在であることを示してきました。一方、欧米や中

国と比較して低下が懸念される日本の研究力を維持・向上させるためにはどうすればよいか? 次世代の医学・医療を担う質の高い人材を全国レベルで育成するため、のしくみをどう整え、継承していくか? など、研究・教育面にも多くの懸案事項があります。そして、国内の各地域に医療機関や医師の偏在が存在し、長らく大学病院からの医師派遣とその長時間労働により地域医療が支えられてきた状況の中で、先述の働き方改革をどう実現していくかが喫緊の問題であることは言うまでもありません。

去る7月29日には、首相官邸に岸田文雄内閣総理大臣を訪問し、コロナ禍における大学病院の貢献についてご報告するとともに、医学部・大学病院の研究・教育・診療に対する平時からの支援を要望してきました(写真)。AIMCを構成する全国の学会員の英知を集め、国や関係機関とも情報交換を重ねつつ山積する課題を一つずつ解決し、持続可能性のある医学・医療の発展を通じて、幸福な社会に貢献できるよう努めたいと考えます。私が地道に活動を重ねることは、千葉大学医学部および附属病院のさらなる地位向上や後進の活躍の場を拡げることにもつながると信じ、2年間励んで参りたく存じます。



CONFERENCE

ともに集い熱く語れ

第54回
日本小児呼吸器学会
2022.10.14 FRI - 15 SAT in CHIBA

会長 石和田 稔彦
会場 オークラ千葉ホテル JR京葉線/千葉都市モノレール「千葉みなと駅」徒歩5分
事務局 千葉大学 真菌医学研究センター 感染症制御分野
お問い合わせ 043-226-2799

〒113-0033 東京都文京区本郷3-3-11
TEL: 03-2618-6400
E-mail: jpp2022@nanuria.co.jp

HP: <https://nanuria.co.jp/jpp2022/>

第91回
日本法医学会
学術関東地方集会

2022年
10月8日(土)
10:00~17:00

会場
千葉大学亥鼻キャンパス
医学系総合研究棟3階

会長
千葉大学医学部法医学
岩瀬 博太郎

第91回日本法医学会学術関東地方集会 事務局
〒260-8670 千葉県千葉市中央区本島1-6-1 千葉大学大学院医学研究科法医学
TEL: 043-226-2078 FAX: 043-226-2079 E-mail: chiba@med-jmbf.chiba-u.jp
<https://www.m.chiba-u.ac.jp/class/nouj/news/chihouka.html>

四半世紀・半世紀 卒業生の集い

千葉大学医学部ホームカミングデー

開催日：令和4年11月20日(日)

13:30～

場 所：るのほな同窓会館

ご案内学年：昭和47年卒業生(卒後50年)

平成9年卒業生(卒後25年)

千葉大学医学部

卒後50年卒業生皆様

卒後25年卒業生皆様



begin.continue

るのほな同窓会会長
吉原 俊雄

千葉大学医学部るのほな同窓会会員の皆様の日頃の御活躍には、同窓会として心より感謝申し上げます。

つきましては、母校においてホームカミングデーを開催し、卒後50年(昭和47年卒)、25年(平成9年卒)の会員皆様の日頃の御活躍への感謝の念をお伝えし、感謝状・激励状および記念品を贈呈いたしたいと存じます。

万障お繰り合わせのうえ、ご参集頂けましたら幸いです。

受章の挨拶

瑞宝小綬章

瑞宝小綬章の栄誉を頂いて

竜 崇 正 (昭43)



令和4年(2022年)春の叙勲で瑞宝小綬章を頂いた。身に余る光栄であり、今までお世話になった多くの先輩、同僚、後輩のおかげであり、深く感謝も申し上げたい。昭和43年卒業時、大学紛争の最中であつたが、当時成東病院にいた吉永雅俊先生を紹介され、外科医の基礎を徹底的に教えて頂いた。その縁もあり昭和46年に第二外科に入局した。後期出張も希望して成東病院に赴任した、4年間の外科医長時代は、思う存分外科医として手術させて頂いた。昭和53年4月に来局すると、大学には新しい超音波診断装置が導入されておられ、今まで見ることもなかった肝胆膵がんが多く診断され、毎日が興奮と感激の日々だった。それらの

病変は、内科外科で議論を重ね治療方針が決められた。特に内科の大藤正雄先生と外科の岩崎洋治先生が協力し合つて難治とされた肝門部胆管がんの治療に取り組んでいた。岩崎先生が筑波大学の教授で転任された後は、私とその仕事を引き継ぎ、外科学会雑誌に論文を投稿した。私の「肝胆膵外科医」の出発点である。それは、治らなくても患者に絶望を与えない「がん医者」の新たな道を探る出発点でもあった。その後、千葉県がんセンター主任医長、新設された国立がんセンター東病院手術部長を経て、1999年に千葉県立佐原病院長となった。佐原病院職員は皆、明るく意欲があつた。しかし、病床利用率は60%に届かず、患者は少なく超暇だった。大赤字の為に予算が少なく、院内連絡体制が悪いのも一因だった。院内連絡体制の整備が急務と考えたが、とりあえず急患は直ちに診ることにし

た。院内連絡体制の整備は急務だったので、PHSによる連絡体制を9月には整備した。220ベッドの病院にもかかわらず、外科、内科など各科のカルテが別々で、オーダー伝票も異なっていた。「口化して病院の診療体制を変えるしかない」と、オーダーリングシステムを採用することとし、いくつかの病院を見学に行った。幸いにも患者の増加で、年末には病床利用率が100%近くに達した。MRIの導入も予算3億5千万で決まった。このMRIと従来の医事会計システムの費用を合わせ、画像連携システムPACSとオーダーリングを整備し、「口化に成功した。また、私の手術を受けに多くの患者が日本各地から集まった事、患者の枕元にカルテを配り医療の透明性を計ったこと、医学書院の看護学雑誌に看護師執筆の連載を2年間行つたこと、等で職員の意識が大きく変わり、明るく楽しい雰囲気になった病院に

なつた。「安全な病院」「患者に優しい病院」ランキングで全国トップクラスに評価されるほどになった。2005年4月に千葉県がんセンター長に転出した。千葉県がんセンターの診療体制は開院以来変わつておらず、治つた患者の診察予約で満杯となり、新患を素早く診れない弱点があつた。そこで新患優先の方針として、開院以来の治癒患者は地域連携システムを整備して、他院での診療をお願いした。「新患は当日検査、当日治療方針の提示」を基本方針とした。このため、「診療機能強化委員会」と「プロトコル開発管理委員会」を設置し、診療体制を抜本的に見直した。プロトコルを整備し、その効果も定期的に評価した。1年後に電子カルテを導入する事とし、全職員に役割を担わせた。診療の効率化は、外来化学療法の実施、内視鏡検査、手術件数の増進を目標に、診療枠を大幅に変更し、原則的に毎日手術を基本とした。全職員の努力により、1年後に電子カルテが導入され、効率的で質の高いがん医療の提供体制が整つた。またDPCデータを利用して、他のがん専門病院と医療の質を比較検討して公表し、英文論文とした。また当時の藤森宗徳県医師会長と齋藤康千葉大病院長と相談し、千葉県がん診療連携拠点病院を千葉県がんセンターが担うこととして、人口600万の千葉県に12の地域がん診療連携拠点病

院を指定した。更に、国立がんセンター東病院、重粒子病院などと連携を強化する体制を整えた。定年後、浦安で町医者となった。まづ行つたのは治療の勉強である。今までは手術と病院経営の医師活動だったのが、薬の名前はほとんど知らなかった。ジェネリック薬は使わないことを問屋に告げ、MRIが多く来院するようになった。MRIの説明を聞くうちに最新の薬を覚えていった。良い薬を早く使うことで「ふじみクリニックに行けば早く治る」との評判が根付いてきた。同じ系統

瑞宝小綬章

瑞宝小綬章を受賞して



令和4年春の叙勲で瑞宝小綬章を受賞しました。これもひとえに、千葉大学医学部同門の方々や東京都立病院の関連の方々のご支援とご指導の賜物と深く感謝いたします。私は昭和49年千葉大学を

南 智 仁 (昭49)

の薬は、最初のMRIの紹介薬の導入を原則としたので、競つてMRIが訪問するようになった。訪問回数が少ないければ他に切り替えるのも原則とした。ライフワークとして取り組んでいるのは「在宅介護医療」である、浦安市医師会の地域医療推進委員として、情報をクラウドに上げて多職種が共有連携する在宅医療を行い、その結果を学会誌に投稿した。久しぶりの査読のある学会誌への投稿だった、叙勲を機に更にまた不断探求の医師の道を歩んでいきたい。

医は年配の方が多く、積極的に消化器手術(臍頭十二指腸切除、食道癌切除除再建術、骨盤内臓全的術など)の臨床経験をさせて頂きました。昭和59年矢沢知海先生(千葉大第2外科出身)が院長として着任し、院長に昇進させて頂く。平成2年新館の増設と共に救命救急センター医長として、3次救急医療の初期治療(脳卒中、心筋梗塞、多発外傷、心肺停止など)に参加させて頂いた。医療を全体的に診る力や死生観などの形成に大変役立ちました。その後外科部長となり、千葉大学、東京大学、女子医科大学より外科研修医を出張して頂き、手術症例や外科病床の拡大を図りました。平成15年都立荏原病院副院長、平成17年都立府中病院副院長を経て、平成19年都立大塚病院院長就任。豚インフルエンザの流行に対処(その頃の保健所はのんびりしていました)。また、救急室の拡充や、総合周産期センター立ち上げにも関わりました。平成22年都立広尾病院院長へ転出。平成23年3月の東日本大震災発生。救急災害医療が重点医療であったことより、多くの職員を現

場へ出張させ協力をしてきました。

平成24年都立多摩総合医療センター(前:都立府中病院)院長へ転出。都立小児総合病院と同じ建物で、1350床の巨大病院です。平成25年3月東京都を退職。現在介護老人保健施設長として手伝っています。令和4年7月現在オミクロンBASのクラスターで大変な状況ですが、社会貢献は続いており、皆様のご健勝とご活躍を祈っています。

各地のものはな会 だより

近畿のものはな会

2022年5月15日(日) 12時半から15時半まで大阪新阪急ホテルで、会場とZoom利用によるWebのハイブリッド形式で開催しました。

コロナ禍で3年ぶりの開催となりましたが、会場は、雨でも濡れないように梅田駅あるいは元大阪駅から地下道を使って到着できる会場を選びました。

現地参加者8名、Web参加者3名の11名と、こじんまりとした同窓会となりましたが、ハイブリッド開

催という新しい試みです。参加者の皆さんの中にはトラブルの発生を心配なさってか、開始30分前には3名の方が応援に駆けつけて下さいました。

世話人である中尾が慣れないZoom操作の準備に手が取られている間に、受付、会計や名札の配布などを有志の方々が手伝って下さり、何とか開演に間に合いました。

まずは、玉置哲也先生の挨拶の後に現地参加者のみの食事タイムとなりました。会場はパーティション付きの丸テーブル2卓が用意されており、1卓に4名と蜜を避けた設営がなされ、ホテル側からは、マスクの装着、黙食の励行そして隣のテーブルへ出向いてのビールの注ぎ合いなどは控えて下さい」といった注意がありました。

食事後にWeb参加者全員のZoomへの入室を待つて13時半からスクリーン前に集まり、集合写真を撮りました。

上田真喜子会長がやむをえない用事で急遽欠席されたため、宇佐美暢久先生が代行として開会の挨拶を行って下さいました。物故者への黙祷後に、各自の近況報告へと移りました。

現地参加者の最高齢は91歳、Web参加者の最高齢は87歳と、年齢に関係なくご本人の意欲に応じてZoomを用いたOnlineでの参加が可能であることが分かりました。

高齢の先生がたは、自らの体力に応じた無理のない医師としての勤務形態を探り出しており、生きがいを感じつつ日々を過ごしておられるご様子が伺い知れました。

中堅の先生は、定年前後に差し掛かり転職や起業などの人生の転機をいかに乗り切っていくかという各自のテーマをかかえており、先輩諸氏の助言を求めています。

また、施設の責任者として勤務先でのコロナのクラスター発生に出会い、地元住民の信頼を裏切らないよう万全の対策を講じて乗り切った貴重な苦労話も聞かせてもらいました。

この世代の子供さん達は独り立ちをする年齢でもあります。社会人として活躍していた子供さんが医療職を目指すようになり、親として暖かく見守りつつも先輩医療者として可能な限り支援しようとしている微笑ましい姿が見受けられました。

若手の先生方の中には、留学を間近に控えたり、これからのキャリア形成が定まらない先生などがいました。諸先輩から留学中の学びだけでなく遊びの心得も聞いたり、「キャリア形成にあたっては『近畿のものはな同窓会』の先輩方に遠慮なく相談してほしい」との助言をもらっていました。

来年も、今年と同時期にハイブリッド形式の同窓会を行うこととなりました。「留学先からも是非参加してもらいましょう」との提案もあり、雨宮浩先生の閉会の辞の後、別れを惜しみつつ来年の再会を楽しみに各自帰途につきました。

写真右から

- 岡田厚(平21)、林富貴雄(昭58)、中尾照逸(昭50)、宇佐美暢久(昭31)、朝長毅(昭59)、雨宮浩(昭35)、玉置哲也(昭38)、増村道雄(昭50)



- SMO参加者
- 左上:伊豆敦子(昭59)
- 左下:清島啓治郎(昭35)
- 右下:植田郁実(平30)
- (中尾照逸)

東京のものはな会

令和4年総会開催報告

令和4年東京のものはな会総会は、7月9日(土)午

後4時より銀座アスターお茶の水賓館にて、万全の感染症対策のもと、約80名の先生にご出席いただく盛況となりました。集合写真は一瞬だけマスクを外し撮影いたしました。

特別講演の山本修一先生(昭58)は「病院長は面白い、理事長も面白い、でも大変」と題して、千葉大学医学部附属病院長時代や現



在「JCHO理事長として取り組んでいらつしやるプロジェクトについて熱弁くださいました。」

若手シヨートスピーチでは、清水逸平先生(平14・順天堂大学循環器内科学准教授)、田啓樹先生(平19・昭和大学衛生学公衆衛生学講座助教)が会場で精力的な研究に基づく発表をしてくださりました。

最後にハーバード留学中の小田紘子先生(平20・東京大学産婦人科)もポスターから早朝6時にNoonで発表してくださいました。

会の最後にはご来賓の9名の現役千葉大学医学部教授の皆さまから温かいスピーチをいただきました。

また、亥鼻祭実行委員会からも3名の学生が参加して、亥鼻祭への寄付など大いにPRされていました。

新年会は、来年1月14日(土)午後4時から銀座アスターお茶の水水館で開催されます。1人でも多くの皆さまにご出席いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

(岡本和久)

第96回日本薬理学会年会
JPW2022大会のご紹介

安西尚彦(平2)

「に加盟(分科会Z.O.)し、平成24年より公益社団法人となっておりです。」

千葉大学医学部として日本薬理学会年会を開催しますのは、昭和29年4月の第27回年会長を務めた薬理学第3代教授の小林龍男先生、昭和62年3月の第60回年会長を務めた脳研薬理教授の萩原彌四郎先生以来、私が35年ぶり3回目です。

この第96回年会の最大の特徴は、第43回日本臨床薬理学会学術総会(松

本直樹会長・聖マリアンナ医科大学)との同時開催を行うことです。JPW(Japan Basic and Clinical Pharmacology Week:日本薬理学関連学会週間)2022大会と銘打って、臨床薬理学会以外に20の学会/学術団体との共催企画を実施し、臨床系3学会の後援を多く得、創薬科学に連関する多くの学会間での包括的連携の端緒となり、我が国の創薬科学の未来を語り合う場となることを目指しております。

その思いを込めて今回「つなげよう、つながろう」

をスローガンとして掲げ、COVID-19により様々な分断を乗り越え、「創薬」という神輿を担ぐ言わば薬理学の「まつり」に集う皆さまが、知らないうちに大きな輪を作ってく、そんな学術集會を目指しております。

詳細はホームページ(<https://www.congre.co.jp/jpw2022/>)をご覧ください。

尚、私の年會を扱った記事「学術集會の未来を語る」が、7月4日発行の週刊医学界新聞の一面を飾りました(https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/2022/3476_01/)。こちらも合わせてご覧頂きますれば幸いです。

「ご参加、ないしご寄付と」
「ご形でのご支援を頂きま」
「すれば幸いです。」

第96回日本薬理学会年会

JPW2022大会のご紹介

安西尚彦(平2)

「に加盟(分科会Z.O.)し、平成24年より公益社団法人となっておりです。」

千葉大学医学部として日本薬理学会年会を開催しますのは、昭和29年4月の第27回年会長を務めた薬理学第3代教授の小林龍男先生、昭和62年3月の第60回年会長を務めた脳研薬理教授の萩原彌四郎先生以来、私が35年ぶり3回目です。

この第96回年会の最大の特徴は、第43回日本臨床薬理学会学術総会(松

本直樹会長・聖マリアンナ医科大学)との同時開催を行うことです。JPW(Japan Basic and Clinical Pharmacology Week:日本薬理学関連学会週間)2022大会と銘打って、臨床薬理学会以外に20の学会/学術団体との共催企画を実施し、臨床系3学会の後援を多く得、創薬科学に連関する多くの学会間での包括的連携の端緒となり、我が国の創薬科学の未来を語り合う場となることを目指しております。

その思いを込めて今回「つなげよう、つながろう」

をスローガンとして掲げ、COVID-19により様々な分断を乗り越え、「創薬」という神輿を担ぐ言わば薬理学の「まつり」に集う皆さまが、知らないうちに大きな輪を作ってく、そんな学術集會を目指しております。

詳細はホームページ(<https://www.congre.co.jp/jpw2022/>)をご覧ください。

尚、私の年會を扱った記事「学術集會の未来を語る」が、7月4日発行の週刊医学界新聞の一面を飾りました(https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/2022/3476_01/)。こちらも合わせてご覧頂きますれば幸いです。

「ご参加、ないしご寄付と」
「ご形でのご支援を頂きま」
「すれば幸いです。」

2022年7月4日 第3476号

New Medical World Weekly
週刊医学界新聞

医学書院 www.igaku-shoin.co.jp

学術集會の未来を語ろう

「つなげよう、つながろう」

安西尚彦氏、岸祐希氏、松本直樹氏

安西尚彦氏 千葉大学大学院薬学専攻 薬理学 教授
岸祐希氏 同 薬理学 准教授
松本直樹氏 同 薬理学 准教授

「つなげよう、つながろう」

その思いを込めて今回「つなげよう、つながろう」

をスローガンとして掲げ、COVID-19により様々な分断を乗り越え、「創薬」という神輿を担ぐ言わば薬理学の「まつり」に集う皆さまが、知らないうちに大きな輪を作ってく、そんな学術集會を目指しております。

詳細はホームページ(<https://www.congre.co.jp/jpw2022/>)をご覧ください。

尚、私の年會を扱った記事「学術集會の未来を語る」が、7月4日発行の週刊医学界新聞の一面を飾りました(https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/2022/3476_01/)。こちらも合わせてご覧頂きますれば幸いです。

「ご参加、ないしご寄付と」
「ご形でのご支援を頂きま」
「すれば幸いです。」

JPW2022 / Japan Basic and Clinical Pharmacology Week 2022
第96回日本薬理学会年会 / 第43回日本臨床薬理学会学術総会 同時開催

つなげよう、つながろう

2022.11.30(水)~12.3(土)
パシフィコ横浜

igaku-shoin.co.jp/paper/archive/2022/3476_01/

「ご参加、ないしご寄付と」
「ご形でのご支援を頂きま」
「すれば幸いです。」

第96回 日本薬理学会年会
The 96th Annual Meeting of the Japanese Pharmacological Society

第43回 日本臨床薬理学会学術総会
The 43rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics

会長 安西尚彦 千葉大学大学院薬学専攻 薬理学 教授
副会長 松本直樹 聖マリアンナ医科大学 薬理学 教授

演題募集期間: 2022年5月16日(月)~7月20日(木)

www.congre.co.jp/jpw2022/

研修プログラム

千葉大学医学部附属病院

先端応用外科（旧第二外科）

における外科研修

千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科

教授 松原久裕（昭59）

当科は千葉医科大学教授であった瀬尾貞信教授が大正15年10月1日に瀬尾外科教室として独立し創設されました。昭和7年第33回日本外科学会にて食道外科の宿題報告をされ、現在まで当科の重要な臨床・研究テーマの1つとなっています。その後、中山恒明教授、佐藤博教授、磯野可一教授、落合武徳教授と引き継がれ、私が平成19年に第6代目の教授として拝命されました。瀬尾教授による世界で初めての胃全摘後空腸間置術、中山教授の食道癌手術成績の向上をはじめとして、常に「News」を念頭に世界へ発信できる最先端の医療・医学研究に邁進し、質の高い医療を安心して提供することを目指しております。

教育に関しても歴史的にたいへん熱心であり、「誰でも一人前の外科医に！」と

いうフレーズで若手外科医を育成してきました。本学医学部附属病院における平成16年の診療科再編により、旧第一外科、現臓器制御外科と役割分担を行い、現在は食道、胃、大腸、肥満外科治療、腎移植、甲状腺の良性・悪性疾患の外科治療を中心に診療・研究に当たっております。地域医療の崩壊、外科医の減少を食い止めるべく、また専門医機構による新たな専門医制度への対応、アカデミアとしての医学博士取得を含め、地域医療から医学会をリードする外科医まで幅広くその育成に力を注いでいます。遺伝子レベルの研究から新規治療の臨床研究まで幅広い研究体制を敷いて、教員の総力をあげて新たな治療を創出していきたくと考えて日々努力しています。

千葉大学外科関連各料当科関連病院と緊密に連携

し、外科専門医、消化器外科専門医、乳腺外科専門医、内視鏡外科学会技術認定、大腸肛門病専門医、消化器内視鏡学会専門医、食道外科専門医など当科で診療する関連専門医も専門にに応じて取得できるシステムを構築しています。Da Vinciロボット手術も2013年に食道アカラシアに対して第1例を臨床研究として開始し、他疾患にも適応を拡げ、そのメリットを最大限に活かせる直腸癌では現在ほぼ全例に行っております。そのため certification も順次、取得を進めています。

千葉県千葉リハビリテーションセンター

センター長・千葉大学医学部臨床教授

菊地尚久（金沢大・平2）

千葉県千葉リハビリテーションセンターは昭和56年に千葉県が設置した総合リハビリテーションセンターです。理念は「誰もが街で暮らすために」であり、障害があっても地域で自由なく暮らせるようにするため、良質な医療と福祉を提供しています。当センターでは入院施設として成人が110床（一般病棟31床、回復期リハ病棟50床、障害者病棟29床）、小児が132床の計242床が稼働しています。

リハビリテーション医療に関しては脳卒中、脳外傷、脊髄損傷、切断などの疾患に対して回復期および生活期のリハビリテーション治療を行っています。当センターでは中枢神経疾患による痙縮で困っている患者が小児成人とも多く、これに対する治療としてボツリヌス療法、髄注バクロフェン療法などの先進的な痙縮治療を

師になりたいという気持ちのある若い方にたくさん来て頂けることを望んでおります。また、関連する各料

関連病院の皆様にも今後のご支援をよろしく御願ひ申し上げます。

とめる県リハビリテーション支援センター、災害リハビリテーション（千葉IRAT）を担う地域リハ推進部、高次脳機能障害者に対して、相談、グループ訓練、県支援センターの機能を持つ高次脳機能障害支援部を有し、センター内だけではなく、県内全体にわたるアウトリー

チの機能を高めています。さらに本年7月に千葉県の医療的ケア児センターの指定を受け、医療的ケア児に向けての支援、県内の関係職種に対する研修会開催などの活動を行っています。医学士、医師の教育に関しては、学生教育として千葉大学医学部のリハビリ



テーシオン医学のACCとして丸1日体験学習を当センターの様々な部署で行っています。専攻医としては当センターが日本専門医機構のリハビリテーション科基幹施設となっており、また千葉大学医学部附属病院ほかの連携施設にもなっており、現在は6名の専攻医が研修を行っています。

研修医だより

放射線科医への道を歩みはじめて

千葉大学医学部附属病院 放射線科

久保田 姫子 (令二)



私は令和2年(2020年)に千葉大学医学部を卒業し、今年度より千葉大学放射線科に入局いたしました。小学生の頃より法医学に携わりたいと考えており、医師を目指しました。大学入学後もその気持ちは揺らぐことなく過ごしております。しかし、学生時代で

最後にありますが、千葉大学への同窓会の皆様にはリハビリテーション治療が必要な患者のご紹介、リハビリテーション治療に関するご相談をお受けいただけますので遠慮なく、ご連絡ください。また見学をご希望の方も歓迎しますのでぜひお越しください。

線診断科に興味を持ちました。榎野先生は千葉大学放射線科で研修を積み、現在東京大学法医学教室准教授/千葉大学法医学教室特任教授として法医学者兼画像診断医として活躍されています。そこで、6年次の学内自由選択期間(現在はアスパイアと呼ばれ、システムが変わっているようです)では放射線科を選択しました。そして、画像診断に魅力を感じ法医学教室に加えて放射線科への入局も決意しました。

画像診断・IYR・放射線治療と多岐にわたります。放射線科の専門医制度は2段階となっており、2段階目に治療と診断で分かれませんが、最終的な専門によらず1段階目では全ての分野の診療に携わり、学ぶ必要があります。

治療部では、放射線治療計画の作成や腔内照射の介助を行います。基本的にはガイドラインに則って照射野を設定しますが、病変の位置や患者さんの背景によっては個別に検討する必要があります。患者さんの予後とOOLを考慮しつつ、多くの先生方からアドバイスをいただきながらよりよい照射野を考えています。また、日本初となるMRIと放射線治療装置の融合機、1.5T-MRIリニアックが導入されており、最新鋭の治療を間近で学ぶことができます。

診断部では、2018年に画像診断センターが設立され、中枢神経、頭頸部、胸部、腹部、乳腺、骨軟部、産婦人科、小児といった各領域のスペシャリストの先生方が所属しています。この強みを活かし、サブスペシャリタイゼーションを導入しています。1か月ごとに各分野を集中して読影

し学ぶことで、成長を感じることが出来ます。IYRはレントゲンやCTスキャン、エコーなどによって得られた画像をもとに行われる処置の総称です。基礎的な治療の助手または術者を上級医の指導の下に行います。

他大学では診断と治療で異なる医局となり、交流が乏しいところもあるようですが、千葉大学では同じ医局に属し、日々の診療はもちろん研究面でも密な関係性を築いています。2年目以降は、志望する分野に応じ、他施設を含めて研修が続いていきます。先輩方のように幅広い知識を持ち、診療や、もう一つのスペシャリテイになる予定である死因究明の一助となるように精進していきたいと思えます。

タッチパネル

100年前の論文

都川流花 (ペンネーム、同窓会員)

紙の寿命は和紙が100年、洋紙が100年と言われている。西暦610年に日本に伝わった和紙だが、洋紙と較べたその耐久性は驚くべきものだ。奈良の正倉院には702年に書かれた戸籍の記録が残っている。1300年の歳月に耐えているのだ。

古事記も日本書紀も源氏物語も洋紙に書かれていたら現代まで残っていたかどうか分からない。1980年代に、図書館に保存されている図書の紙が劣化してバラバラになるという事象が問題になり、その後洋紙の改良が進められて酸性を除去した中性紙と呼ばれる現在の特別な洋紙の寿命は300、400年に延びたが、まだ和紙には及ばない。

神経細胞は2種類の突起を持つている。樹状突起と軸索だ。この突起は繋がりが合って情報を伝達するシナプスを形成している。軸索は最初、もっ

ばら電気信号を伝達する回路と考えられていた。100年以上前の顕微鏡観察では染色によって固定された細胞や組織を見ていたのだ。動きのない静止画像だ。生体染色が開発されてきた状態の細胞の観察が可能になり驚くべきことが発見された。現在では『軸索輸送』という用語で広く知られているのだが神経細胞から伸びる軸索の内部には液が流れていて、その流れの中で顆粒が活発に移動していたのだ。

これを世界で初めて報告した論文はJOHNS HOPKINS HOSPITAL BULLETIN, 31: 91-93 (1920)に載っている。著者はタカサブロウ マットト、ジャン。当時そこに留学していた後の千葉医科大学精神科教授、同大学学長の松本高二郎だ。顕微鏡写真の技術はまだ発達していなかったのだろう。顕微鏡画像は全て詳細な手描きのスケッチになっている。

100年前のこのジャーナルはJOHNS HOPKINSの大学の図書館にある。洋紙に印刷されて100年以上経過しているのに、コピーを取る際に乱暴に持ち上げるとバラバラになりそうだが、やがては電磁記録に置き換えられるのだろう。電磁記録の記録方式は数年ごとに次々と目まぐるしく変わるから正倉院にある書類のように1000年後の人にもこのままの形で読んでもらえるものだろうか。たった20年前に3.5インチフロッピーに入れた記録さえ、いま読もうとすると簡単ではない。振り返って見れば同じ3.5インチフロッピーでもメモリーごとに記録方式が違っていたのだ。

MOは既に過去のものになり、SDカードもUSBフラッシュメモリーもCD-RもDVDも程なく淘汰されて新しい方式になるだろう。ハードディスクも例外ではないはずだ。

『萬葉集』が現代に残っているのは大伴家持がパソコンやワープロを持っておらず和紙に毛筆で書いたお陰だと私は思っている。

学内情報

亥鼻祭2022開催のお知らせ

2022年度亥鼻祭実行委員長

医学部3年 中山 哲志



亥鼻祭2022ロゴ

亥鼻祭は、千葉大学亥鼻キャンパスで毎年11月初旬に開催される大学祭で、医学部、薬学部、看護学部の三学部が協同して実施しております。2020年度は新型コロナウイルスの影響により開催が危ぶまれましたが、オンライン仮想空間に再現したキャンパスで様々なイベントを実施し、多くの方々から好評をいただきました。2021年度は無観客開催ではあるものの、2020年度に実施したコンテンツに加え、記念講堂からのYouTube生配信に挑戦をしまして、実地開催に向けて大きな一歩を開いた。2022年度亥鼻祭は11月6日(日)の開催を予定しております。開催形式等については現在協議中ですが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ3年ぶりの実地開催も視野に入れて準備を進めております。亥鼻祭は近隣住民の方々や協賛企業様、いつも

我々を支えてくださっている先輩方、千葉大学に関心を寄せておられる受験生や関係者の皆様、そしてなにより、学生の成長を見守ってくださる保護者の皆様との交流、親睦の場としての機能も果たして参りました。コロナ禍で制限されていた、そうした人と人との関わりを少しずつ取り戻していきたいと思っております。

2022年度亥鼻祭のテーマは「Colorful」です。亥鼻祭に関わる全ての人が自らの個性を存分に発揮し、亥鼻祭を彩り豊かに色付けていってほしいという願いを込めました。

これまで長きにわたって亥鼻祭が開催できたのも、同窓会の皆様方をはじめ、亥鼻キャンパス周辺地域の皆様や保護者の方々のご支援・ご協力の賜物でございます。謹んでお礼申し上げます。皆様への感謝の気持ちを忘れず、亥鼻祭当日まで我々委員一丸となって皆様とともに新しい亥鼻祭を作り上げてまいります。学生一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

ろのはな同窓会支援

医学部教授が薦めるこの一冊

千葉大学附属図書館亥鼻分館長 安西 尚彦 (平2)

推薦図書一覧

(先生方のお名前五十音順)

お名前 (ご所属)	書名
青木保親先生(総合医科学)	ディズニー サービスの神髄が教えてくれたこと
安部隆三先生(次世代災害治療学)	「死」とは何か ユール大学で23年連続の人気講義 完全翻訳版
石和田鶴彦先生	罪と罰(新潮文庫)上・下
(真鍋医学研究センター)	路傍の石(新潮文庫)
尾内善広先生(公衆衛生学)	白仏(文春文庫)
尾内善広先生(公衆衛生学)	流転の海 第一〜九部(新潮文庫)
加藤直也先生(消化器内科)	WHAT IS LIFE?(ホワット・イズ・ライフ?) 生命とは何か
木村元子先生(実験免疫学)	注目すべき125週の手紙 その時代に生きた人々の記憶 若き科学者へ
櫻井健一先生(予防医学センター)	臨床集英会文
鈴木拓見先生(呼吸器内科学)	精神と物質—分子生物学はどこまで生命の謎を解ける(文春文庫) 内なる肖像—生物学者のオデュッセイア
幡野雅彦先生(疾患生命医学)	ウイルスの意味論 生命の定義を超えた存在 ウイルスの世紀 なぜ繰り返し出現するのか
馬場隆之先生(眼科)	失敗の科学: 失敗から学習する組織、学習できない組織
濱田洋通先生(小児病態学)	雪の花(新潮文庫) かがみの孤城 輝やけ我が命の日々よ
菱木知郎先生(小児外科学)	深い河 新装版(講談社文庫) もの喰う人びと(角川文庫)
松原久裕先生(先端応用外科)	あぶない法哲学 常識に衝突(思考のレッスン(講談社現代新書) 地磁気逆転と「チバニアン」(ブルーバックス)

『ごあいさつ』

「本を読む」こと、それは限りある自分の人生の中では起らない世界の疑似体験であり、他人の気持ちや人生に思いを馳せることでもあります。社会人である医師となり、多様な患者さんの様々な人生の岐路に立ち会う時、自分の経験だけで全ては判断できません。「本」にはそのよりどころとなる事例が多数含まれている、と思います。

この企画が始まり、多くの皆さんが紹介された本を手にとってくれました。いつもは講義でしか会わない先生が、こんな本を推薦しているのか!、と驚かれた方もおられるかと思ひます。

展示の経緯をご紹介します。

- ・2018年度「(医学部) 教授の薦めるこの一冊」として開始しました。

- ・2019年度は医学部の講師以上の先生方に推薦を頂き「医学部教員が薦めるこの1冊」を開催しました。

- ・2020年度はOBであるろのはな同窓会の先生方にもご推薦いただき「医学部教員・先輩が薦めるこの1冊」を開催しました。

- ・2021年度は、コロナ禍のため休止しましたが、2022年度は「医学部教授の薦めるこの一冊ver.2」を開催いたします。どんな本が紹介されているか、期待をもって紹介された本を手にとって頂ければと思います。

ろのはな同窓会には資料購入の助成いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

附属図書館亥鼻分館長 安西 尚彦

課外活動団体だより

千葉大学医学部硬式野球部

医学部4年 倉 永 奨 太

千葉大学医学部硬式野球部は大正13年に創部され、現在は医学部生16名、薬学部生1名、看護学部生6名の計23名で活動しております。プレイヤーは医学部生のみとなっておりますが、薬学部生は学生コーチ、看護学部生はマネージャーとして、部活動を支えてくれています。部活動を運営するにあたって、学生コーチ、マネージャーの存在は必要不可欠であり、彼らの支えがあるからこそ、プレイヤーは野球に集中することができています。

活動日は主に、火曜日、木曜日、土曜日または日曜日であり、平日は亥鼻キャンパスに新しくできた多目的運動場、休日は西千葉キャンパス野球場や外部のグラウンドを使って練習、試合に励んでおります。部員の半分は、高校野球未経験ですが、上級生が下級生の指導にあたりたり、練習の中でプレーの改善点や上手くなるための方法を



活発に議論し合ったりすることで、大学から野球を本格的に始めた部員も、試合に出場し、活躍をみせております。部員の人数は決して多くはありませんが、そ

の分、一人当たりの練習の質や量は向上しますし、上級生と下級生の上下関係も厳しくなく、とても良い雰囲気の中で部活動を行っております。

部の目標は、毎年8月に行われる東日本医科学学生総合体育大会で優勝することです。今年も、昨年、一昨年に引き続き、東医体の硬式野球競技は中止となつてしまいました。代わりに行われた東医体代替試合に

おいて、ベスト4という成績を残すことができました。優勝にはあと一歩及びませんでした。一つの目標に向かってチーム一丸となり、全力で活動することの素晴らしさを改めて実感しました。

今回の東医体代替試合を含め、平素より、顧問の安西尚彦先生や、副顧問の坂本信一先生をはじめ、たくさんの方の先生方からご支援を賜っております。先生方の支えの上で、活動できていることを心に留め、この歴史ある千葉大学医学部硬式野球部の伝統を受け継ぎ、さらに発展させていきたいと思っております。未だ、新型コロナウイルスが猛威をふるっている状況ではありますが、こうした中でも部活動に取り組んでいることに感謝し、今後とも医学部生としての自覚を持ちながら活動してまいります。



Always wear a mask!

ソーシャルディスタンシングキャンペーン

一人で食べよう!!

Always aim higher!

CHIBA UNIVERSITY

Always wear a mask!

ソーシャルディスタンシングキャンペーン

黙って食べよう!!

Always aim higher!

CHIBA UNIVERSITY

Always wear a mask!

ソーシャルディスタンシングキャンペーン

会話は食後にマスクで!!

Always aim higher!

CHIBA UNIVERSITY

黙食を呼び掛けるステッカーが学内で貼付・配布されました。



The 75th Annual Scientific Meeting of the Japanese Association for Thoracic Surgery

第75回 日本胸部外科学会定期学術集会

協奏する 胸部外科

演壇募集開始

2022年2月15日(火) ▶ 4月19日(火)

会期 2022年10月5日(水)~8日(土) 会場 パシフィコ横浜

会長 中島 淳 分科会長(心臓) 荻野 均 分科会長(食道) 松原 久裕

東京医科大学 呼吸器外科 東京医科大学 心臓血管外科 千葉大学大学院医学研究科 がん応用外科

主催事務局: 東京大学医学部附属病院 呼吸器外科 〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1
 学術集会事務局: 日本胸部外科学会 〒112-0004 東京都文京区湯島2-3-27 テラビル後楽ビル1階 E-mail: jats-gakkai@num.ac.jp
 演壇事務局: (株) コンブレ 〒103-8276 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング3階 E-mail: jats2022@conger.co.jp

同窓会員著書の紹介

三枝かずを（昭32）・ふみ代著 句集 梅が香

（株）書肆アルス

紹介者 増田 善昭（昭35）



本句集「梅が香」は三枝かずを、ふみ代ご夫妻の夫婦句集として「周恵の里」「泉汲む」に次いで第三集となる句集であり、平成23年から令和3年までの句中それぞれ約300句ずつを選んで構成したものである。

昭和の初めより終りにかけ千葉大学医学部に当時法医学教授であった加賀谷凡秋先生（ホトトギス同人）の主宰するやはぎ会という俳句会があった。三枝かずを・ふみ代ご夫妻も私もその一員である。会員数は決して多いとは言えないが、唐笠何蝶（俳誌阿寒主宰、ホトトギス同人）、山本柊花（ホトトギス同人）、萩原季葉（万緑同人）、村山さとし（万緑同人）、布川武男（郭公、鹿代表）、谷川章

子（ホトトギス同人）、上山永晃（春燈同人）等の俳人を出している。ホトトギス以外の結社に入会した方も多いが、凡秋先生の包容力あるご指導のためのものであろう。青春の頃この様な会で俳句の基礎を教えて頂き、仲間とともに自由に句を作ることができたのはお二人の俳句に大きな影響を与えたものと推測できよう。私

がやはぎ会に入会したのは大学に入学して間もなくであったが、その頃、三年上級のかずを氏は学生の中心として会をまとめる立場にあり、田舎から出たばかりの私はいろいろご迷惑をお掛けしたに違いない。当時、附属病院検査部主任のふみ代さんは私より少し後で入会され、美人女性の入会に我々若手は大いに喜んだものである。かずを氏は大学卒業後、外科医の道を選ばれ、千葉大学第一外科に入局、その後、御父上の医院を継いで

開業され、一代にして大きな病院と2つの老人健康保健施設を設立し、同時に、第一外科同門会長、千葉大学のはな同窓会理事の労を取られた。また、千葉県医師会副会長、君津・木更津医師会副会長の要職を長年務められ、これらの功により、平成24年旭日双光章の叙勲の栄を賜っている。一病に一挙賜り年迎ふ

かずを 叙勲という栄誉とは別に、その前後の年はお二人にとって心配事のあった年である。まず、ふみ代さんが、次いで、かずを氏が大病を患い、入院、手術を受けることになった。幸いお二人とも治療がうまく行き、現在、元気に暮らされているが、二度と出会いたくない経験であろう。

梅雨空を見上げて夫は往診に 多し、いまだに、二月には針供養、八月には施餓鬼などの行事が行われるのである。 梅雨空を見上げて夫は往診に 多し、いまだに、二月には針供養、八月には施餓鬼などの行事が行われるのである。 梅雨空を見上げて夫は往診に 多し、いまだに、二月には針供養、八月には施餓鬼などの行事が行われるのである。

にした古い港町には寺社も多く、いまだに、二月には針供養、八月には施餓鬼などの行事が行われるのである。

ご夫妻の句集の中で患者さんの診療に触れた句は稀である。医師としては患者さんの不幸には触れたいという心情が働いたためではなからうか、これは稀な例の一つ。今にも雨の降りそ

先生の病院に数年間、隔週一回、内科診療のお手伝いをさせて頂いたが、一番驚いたのは看護師さんが患者さんに対し親切にしかもしっかり看護指導をしていることであった。看護師長さんに聞くとかずを先生は短期で手術場でもちよつとした手違いで直ぐ怒り出すのですよ、大変厳しい先生なので何遍も辞めようと思ったのですが、奥様がとても優しくしてくれるので堪えて

先生に付いて来ました。おかげでここまでなんとかできるようになったのですと笑って教えてくれた。厳しさと優しさは医師の必要条件であるが、両立することはなかなか難しい。その点、かずを氏は二つの条件にふさわしい方であるが、さらに、ふみ代さんと云う良き

御伴侶を得て名医になるべく感じ入ったのだとつくづく妻めば厨にまちて感刺む 本当に息の合ったご夫婦である。 「句集梅が香、跋を縮めて一文とさせていただきました」

山崎章郎（昭50）著 ステージ4の緩和ケア医が実践する がんを悪化させない試み

新潮選書 新潮社

定価 1485円（税込）

山崎 章郎（昭50）



始したが、過酷な副作用を経た7クール終了後の2019年5月、両側肺の多発転移が判明し、以降、ステージ4の大腸がん患者として生きている。

日常が壊れる程の抗がん剤の副作用を体験した私は、治療を前提には出来ないステージ4の標準治療である抗がん剤治療を受ける気持ちにはどうしてもなれなかった。

それ以来、標準治療を受けることなしに3年が経過した。両側肺の多発転移は、現在も存在しているが、転移発覚時よりも、縮小したままの状態を維持している。本書は、発病当初から、

1980年代の、悲惨ともいえた終末期医療の状況を打開すべく1990年「病院で死ぬということ」（主婦の友社、現・文春文庫）を世に出した。

同年11月に切除術を受けた。ステージ3だった。再発予防目的のゼロイダを開

上記のような現在に至るまでの経過を記録したものである。その中で私は、3年に渡るステージ4の大腸がん当事者として、ステージ4の固形がんに対する標準治療の現実、公的医療保険の実状、それらのはざまに、「抗がん剤治療は選択したくない」、「がん難民」とも言われている人々の現状などを考察した。

そして、現代がん医療の欠落部分ともいえる「がん難民」を支援する方策を色々考えているうちに「がん共存療法」という概念にたどり着いた。

それは、「がんが存在しているも、増殖しなければすぐに命にかかわることはない。すなわち、がんとの共存は可能である」という考えである。

ゆえに、抗がん剤ではない方法で、がんの増殖を抑制する、理論的ながん治療法を探求し、自ら実践してきた。そして今、その成果を世に問う時が来たと考え、本書を出版することにした。ご一読いただければ幸いです。

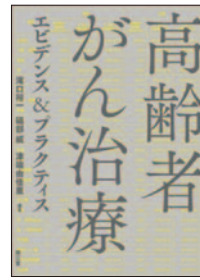
滝口裕一(昭58)、磯部威、津端由佳里編

高齢者がん治療

エビデンス&プラクティス

南江堂 定価 6,930円(税込)

滝口 裕一(昭58)



毎年100万人の日本人ががんに罹患し、40万人弱ががんで亡くなっています。その中で、65歳以上の高齢者はがん罹患者の75%、がん死亡者では87%もの割合を占めています(全国がんブロ協議会会長・松浦成昭先生・推薦のことばより)。がん患者の中で高齢者は多数派を占めるものの、それでも特殊な集団と考えざるを得ません。認知機能を含むさまざまな臓器機能が低下していることにより特別な配慮が必要だからです。こうした背景で、本書を編集できたことは私にとって大変有意義でした。本書は、総論と各論で構成されますが、総論で「老年医学の基礎知識」と「高齢者がんの治療とケア」を解説した上で、各論では「各種疾患における高齢者治療の実際」

さらに「認知症を合併した高齢がん患者の問題」、「高齢者医療における社会的支援制度」、「機能評価加算算定」を解説し、各種がんの専門的治療、倫理的問題、社会制度、医療保険制度まで網羅しました。千葉大は2007年以来、通称「がんプロフェッショナル養成プラン」(大学院教育の文科学業)の中心的施設として積極的に取り組んできましたが、本書はその専攻生を対象としたテキストとして使っていたことも目的としました。もちろんがんの診療・ケアを専門とする広範な医療従事者のお役に立てるものと思います。執筆者は全国から各分野の専門家56名にお願いしました。裕美、田邊亜純、中野香名、石橋みゆき、飛田篤子の各先生にご執筆いただきました。ご多忙の中、大変貴重な原稿を賜りあらためて御礼申し上げます。公衆衛

生と医療の進歩により、日本を含む国際社会において今後ますます高齢化が進みます。多くの国民が長寿の恩恵を受けるのは素晴らしいことですが、その一方でがん患者の高齢化はさらに顕

近藤克則(昭58)著

『健康格差社会』

医学書院

定価 2600円(税別)

近藤 克則(昭58)



拙著「健康格差社会―何が心と健康を蝕むのか」(医学書院)の初版を出版したのは2005年だった。幸い好評を得て9刷まで増刷された。当時「健康格差」はもちろん、同書で取り上げた「ソーシャル・キャピタル」などの「健康の社会的決定要因(SDH)」、SDHを説明する「社会学」を知っている人は少なかった。あれから17年間で、ずいぶん状況は変わった。いまや「健康格差の縮小」はWHO総会決議(2009)、日本でも「健康日本21(第2次)」(2013)で

著となり、医療費の高騰を含む多くの問題を抱えると思われがちです。皆様がこうした問題に取り組む中で本書が少しでも参考になればこれ以上の喜びはありません。

政策目標に掲げられている。世界医師会や米国内科学会など海外だけでなく、日本学術会議や日本プライマリ・ケア連合学会も声明や提言をするに至った。「ソーシャル・キャピタル」は厚生労働白書(2014)で取り上げられ、「健康の社会的決定要因」は医学教育モデル・コア・カリキュラム(2016)に加わった。初版(P169)に「おそらく今は社会疫学の黎明期である」と書いたが、社会疫学は、いまや日本疫学会の会員の専門分野の中で最多の登録分野となるなど隆盛期を迎えている。私事ながら「健康格差縮小を目指した社会学研究」に20年以上取り組んできたことを評価していただき「日本医師会医学賞」(2020)もいただいた。

た。

この17年間に、多くの社会疫学者の手によって研究の蓄積が進み、「おそらく○○だ」と初版に記した仮説の多くが実証され、新たな概念も生まれた。「ゼロ次予防」や「ライフコース」「建造環境」など、初版では触れなかった新しい概念を盛り込んだ第2版を、第32回日本疫学会学術総会の会長を務めさせていただいた2022年に出版できた。この間の研究成果を踏まえ、引用文献の多くをsystematic reviewをはじめとする新しい文献に差し替え・追加した。

いまだに健康格差は残っているが、「健康格差の縮小」は可能であることは、英米のみならず国内でも「健康日本21(第2次)」中間評価などで確認された。20年前には一部の研究者しか知らなかった「健康格差」や「ソーシャル・キャピタル」が、今では広く知られるようになったように、第2版で紹介した新しい概念の重要性は、今後10年もしないうちに、医学・医療界において、いや社会で広く知られるようになるだろう。例えば、臨床における「社会的処方」、研究においては「成果連動型

民間委託契約方式(PFS)」、そして全ての領域で、今よりも「生物心理社会(bio-psychosocial)モデル」の考え方や実践が普及するだろう。そんな流れを加速したいという思いを込めた第2版である。初版同様、多くの方に手に取っていただけることを願っている。



第97回千葉医学会 学術大会

期日 2022.10.28(金) 15:00~17:15

会場 千葉大学あのはな記念講堂 (千葉大学亥岡キャンパス内) 参加費 無料

事前申込 [10/28学術大会参加希望]と明記の上、「お名前、ご所属、連絡先(E-mail, TEL, FAX)をご記入いただき、下記事務局までE-mailまたはFAXでお申込みください。(当日受付可)

特別講演 研究が創る世界

演者 齋藤 康 先生
千葉大学 名誉教授
未来医療教育研究機構 特別顧問
座長 横手幸太郎 先生

招待講演 From bench to bedside and hospital management

演者 横手幸太郎 先生
千葉大学大学院医学研究科 内分沁代謝・血液・老年内科学 教授
千葉大学医学部附属病院 病院長
座長 齋藤 康 先生

※本講演会は日本医師会生涯教育講座(1単位 CC:0,その他)として承認されています。
※開催内容に変更が生じた場合、本会ホームページ上でご案内いたしますので、ご確認くださいませようお願いします。
事前申込・問合せ 千葉医学会 TEL: 043-202-3755 FAX: 043-202-3757 E-mail: info@c-med.org https://www.c-med.org

会員から

書籍『小象の元気！でいこう』が 千葉県立高等学校の道徳教材集に 紹介・掲載されました

NPO小象の会理事長

篠宮正樹(昭50)



図1 千葉県立高等学校道徳教材集の抜粋冊子の表紙

同窓会報187号(15面)でご報告したように、NPO法人生活習慣病防止に取り組み市民と医療者の会(愛称:小象の会)は、千葉日報紙に2018年10月から2年間掲載した生活習慣病についてのコラム(執筆者31名)を書籍にまとめて刊行しました。その特徴は、生活習慣病の怖さを強調するのではなく、我々が生まれてきたことの奇跡と生命の精妙さと素晴らしさを説いて、身体を大事にしてもらおうとの趣旨にあります。この書籍は3千冊作成して、医療団体の役員や病医院、千葉市の小中学校や千葉県の県立高等学校の校長と養護教諭の先生に寄贈しまし

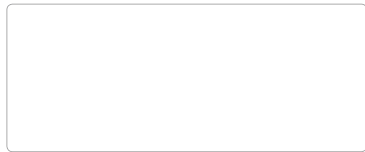
1 私たちは素晴らしい身体を持っている

書名 小象の元気！でいこう
身体の不思議を知って生活習慣病を防ぐ70話 (NPO法人 小象の会)
著者 篠宮正樹

ふだん意識することはありませんが、私たちの知覚能力や身体能力は他の動物よりもはるかに優れています。以下の文章を読んで、人間の身体のごさや不思議さを考えてみましょう。



いきなりクイズです。
左の「+」記号を9個使って円を4つ作ってください。



2問目です。左の図は層根瓦の紋様です。左右どちらが出っ張って見えるでしょうか。それでは、この絵を180度回転させてください。出っ張って見えていたほうに変化はありましたか。



図2 道徳教材集の書籍内容掲載部分の1ページ

平成15年度学術振興会特定国派遣研究者として英国に1ヶ月滞在しました。本研究課題は「脳磁図を用いた言葉の認知発達機構の国際比較研究」でした。この期間中リーズに2週間滞在し、英国での医学教育支援体制をリーズ大学関係者から聴取し、英国のあるベキ医師像ならびにそのための医学教育方針を垣間見ることができました。リーズ大学には、教育病院であるLeeds General Infirmary (LGI) & nearby St. James University Hospital (StJH)がある。後者のキャンパス内には、医学教育に活用されている医学史博物館であるThackray Medical

博物館がある。博物館は1902年リーズに設立された医療供給会社チャス・F・サックレイ株式会社が起源である。会社の資源や資料として医療機器や書籍、文献などのコレクションを所蔵することを目的とした。開館は1997年で、当時のSt. James's Hospital隣にあったリーズユニオン会館内に展示された。本博物館のホームページでは、工業事業主のポール・サックレイと内科医のモンティ・ロズウスキ教授の共同出資で設立された。筆者は以前2度ほど館内を見学したが、2019年5月に改修のため閉館されたが、2021年5月に再公開さ

欧州医学史巡り

リーズ

杉田克生(昭54)

掲載された部分を抜粋して冊子を作りました。図1は、道徳教材集の表紙に文言を入れたものです。図2にその1ページを示します。千葉県立の高等学校122校と特別支援学校の生徒約10万名が目を通すのかと思うと、大変うれしく思い、ここにご報告申し上げます。

れた。今回は改修前の報告であることをお断りする。館内は主にヴィクトリア朝以降の医学史関連が展示されている。産業革命華やかなりし中部イングランドでは、如何に劣悪な労働環境であり、成人の長時間労働に加え子どもの労働が日常茶飯事であった。日本の明治時代の殖産興業時代での労働史を思い起こさせる。多くの労働者が狭い住居環境で生活し、上下水道が整備されておらず、ロンドン同様コレラなどが流行した。ばい煙などのため子どもの気道疾患の増加も多かった。産業革命時代の結核などの感染症の増加、貧富による捨て子や孤児院の増加、医療機関にかかれないう状況など、国民皆保険制度前の問題はその後と日本と同様であることを想起させたい歴史である。一方、麻酔や外科手技の進歩などが分かりやすく機械や器具の展示に沿って展示開示されている。医療機器会社として発展したので、館内には整形外科用補助具などが多く展示されていたのが印象に残っている。千葉大学でもこのような医学博物館が開設できたらと願うところである。



写真 Thackray Medical Musium 前景

雑文雑談

語源について

石出 猛史 (昭52)

ピンからキリ 『新明解国語辞典』(三省堂)には、「上

等高級のものから下等低級のものまで」と説明されている。「ピン」はポルトガル語の pinta が語源でポイントの意味であり、西洋カルタ・サイコロの「一」を表すと

ある。「キリ」は「切」で区切りの意味だという。しかしこの「一」は基数の番号付であって、序数の意味はないと考えられるので、「二」を最上とする根拠が不明である。また「ピン」と「キリ」の関連性も不明である。

岩波書店の『広辞苑』でも同様な説明がされている。一方岩波文庫にはさまっていた葉に載っている「ピンからキリ」の用語解説で「キリ」について、「際限・限度」として思われがちだが、ポルトガル語のクルスが転じて十もしくはウンスンカルタの最高の札の意味で、キリの方が上らしい」と記述されており、カルタの手札の優劣からの判断のようである。しかしこの説明では「すべて」を指すことになる

「すべて」を指すことになる

のではないのだろうか。筆者は「ピン」を針状のピン、「キリ」を錐で思っていた。出典は忘れたが、「ピン」も錐も穴を開ける道具である。ピンで開ける大ききの穴を錐で開けることとはできない。錐で開けるような穴をピンで開けるのは大変である。従って穴を開けるには、用途に合った道具が必要である」という説明があった。「適材適所」のような意味になる。筆者もこちらの解釈の方が妥当であるように思われるのだが。

英和辞典に Gilbertan という言葉が載っているが、Gilbert 流の こっけいな とんちんかん」という訳がついている。語源はウィリアム・ギルバートに由来する。ライトオペラとコミックオペラ(喜歌劇)の異同は別として、どちらもオペラではなくオペレッタに分類されている。オペレッタは歌劇であるが、上流階級権力者を皮肉ったもので、オペラのような芸術ではなくエンターテインメントだという。毎年大みそかにウィーン

の学友協会がウィーン

のような陰鬱な曲ではない。ギルバート・オサリバンの本名はレイモンド・エドワード・オサリバンで、ギルバート&オサリバンに因んで付けた芸名である。筆者は一時この二者を混同していた。

ギルバート&オサリバンは、英国の台本作家ウィリアム・シユウエンク・ギルバートと作曲家アーサー・シーモア・オサリバンのことで、19世紀後半の25年間に2人で十数作の「ライトオペラ」を作った。当時の大変な人気作家であり、代表作に「ミカド」がある。イギリスにおける日本ブームの火付け役になったともいわれている。

フィルの演奏によるヨハン・シュトラウス二世作曲「オペレッタこうもり」が上演される。

あのはな 千葉市中央区亥鼻町の一角は亥鼻山であるが、国土地理院の千葉県の山としては登録されていないので通称である。「亥鼻」という名の由来について『千葉実録』という本で「(城の)本丸が亥の方向を向いているから」と説明されているが、一方で猪の鼻の形をしているからという通説がある。また「井の花」と記述した史料もある。亥鼻町は銚子から続く北総台地の端に位置する。地形図を見ると、大和橋に面した神明社がある辺りは、亥の方向に突き出しており、猪の鼻の形の様でもある。神明社は、千葉氏が、千葉の城を囲むように配置した五つの守護神の一つとされているが、「結城の神明」とあるので後世現在地に移されたものであるのか。他の四つは曾場大明神・堀内牛頭天王・御達報稻荷大明神・千葉寺の龍蔵権現である。

千葉大学あのはな同窓会会員の皆様へ

「会員総合補償制度」のご案内

保険期間：2022年3月1日午後4時～2023年3月1日午後4時（中途加入随時受付）

産業医等業務、刑事弁護士費用も補償可能に！

高額化する医療訴訟に備えて

3億/9億

対人1事故 / 保険期間中 Z3タイプ登場！免責金額なし

安心1

合計最長7年の長期補償

働けなくなった時の収入を補償

安心2

先進医療も補償！

入院・手術を補償

安心3

特定感染症も地震によるケガも補償！

日常生活をお守りします

安心5

突然の必要に備えて

介護を補償

安心4

※パンフレット等資料のご請求やお申込みは、右記取扱代理店までお問い合わせください。中途加入の場合、毎月20日までに頂いたお申込みにつきまして、翌月1日が補償の開始日となります。

【お問合せ先・取扱代理店】
PIONEER 株式会社パイオニア
 Tel: 0120-36-8442 (平日 8:45~18:00)
<https://www.pioneerltd.com> 【資料請求はこちらから】



この広告は医師賠償責任保険、産業医等活動保険、団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットでご確認ください。また、ご加入にあたっては、必ず重要事項説明をよくお読みください。詳細は団体代表者の方にお渡ししてあります。保険約款および特約によりますが、ご不明な点は取扱代理店または引受保険会社へお尋ねください。
【引受保険会社】東京海上日動火災保険株式会社 (担当課)医療・福祉法人部 営業第二チーム Tel: 03-3515-4143 (平日9:00~17:00) 2022年8月 22-TC03219

パルスオキシメーター 精度(90%)を超えて

組織低酸素の診断と改善

第25回 日本医療ガス学会学術大会・総会
The 25th Annual Meeting of the Japanese Society for Medical Gases

2022
会期 **10/15** 9:00-15:30
会場 龍宮城スパホテル三日月 (千葉県木更津市)
WEB 同時開催

2022 **6/1** WED 募集期間
演題募集のお知らせ
7/31 SUN

【参加申込】現地：当日 WEB：https://soc-jsmg25.com
【参加費】医師：¥5,000 医師以外：¥3,000
【会長】磯野 史朗 (千葉大学大学院医学研究院麻酔科学教授)

第46回 The 46th Annual Meeting of the Japanese Society of CNS Computed Imaging

日本脳神経CI学会総会

— 画像の進歩と医療革新 —

2023年1月20日(金)・21日(土)

会場 ▶ 幕張メッセ(国際会議場) 会長 ▶ 岩立 康男 (千葉大学大学院医学研究院 脳神経科学教授)

事務局 千葉大学大学院医学研究院脳神経科学
〒260-8677 千葉県千葉市中央区京浜1-9-1
TEL:043-226-2116

運営事務局 株式会社ドゥ・コンベンション
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-23-5F
TEL:03-5289-7717 FAX:03-5289-8117
E-mail:ci2023-office@umin.ac.jp

<http://ci2023.umin.jp>

埼玉るのはな会 第23号 2022年8月

埼玉のはな

千葉大学医学部のはな同窓会埼玉県支部

第23号 2022年8月



埼玉のはな 第23号 2022年(令和4年) 目次

ご挨拶	
巻頭言	吉川 廣和 …… 1
お知らせ	
埼玉県支部総会中止のご案内とメールアドレス登録のお願い	…… 3
お祝	
喜寿	
我が青春のイチページ	金田 庸一 …… 4
話の広場	
短歌 日常属目録(其の一)	根岸 敬矩 …… 6
近況 御挨拶	新井 邦男 …… 15
随想 逝ってしまった所沢の仲間達	永田 一郎 …… 15
史実と小説の間	松本 生 …… 17
全国区? 地方区?	諏訪 敏一 …… 21
Use it or lose it	上野 邦弘 …… 22
埼玉県医師会役員選挙と日本医師会会長選挙を終えて	登坂 薫 …… 23
院長を悩ます諸課題	伊藤 博 …… 26
埼玉医科大学創立50周年を機とした雑文	市岡 滋 …… 27
趣味 ロシアのウクライナ侵攻に思う	上野 泉 …… 29
天体写真録(11)	杉浦 敏之 …… 37
病院近況	
獨協医科大学埼玉医療センター 近況報告	吉富 秀幸 …… 44
社会医療法人 熊谷総合病院	斎藤 雅彦 …… 46
埼玉県支部から	
ご挨拶とお願い・令和2年度埼玉県支部決算報告	中村 勉 …… 48
年会費納入者名 お祝いとお悔やみ	…… 49
埼玉県支部規約	…… 50
お願い・原稿募集	…… 51
表紙写真のご案内	今野 慎 …… 52
編集後記	今野 慎 …… 53

お く や み

- 長崎 邦泰 (昭24)
- 奈良林 定 (昭25)
- 三橋 慎一 (昭27)
- 武宮 英雄 (大阪歯大・昭27)
- 三方 淳男 (慶応大・昭32)
- 清水 文七 (昭33)
- 母里 啓子 (昭35)
- 杉岡 昌明 (昭37)
- 波多奈美代 (千葉大薬・昭39)
- 野崎 忠信 (昭42)
- 加勢 満 (昭50)
- 赤嶺 正裕 (昭51)
- 宇野 英雄 (城西歯大・昭51)
- 市川 崇 (昭55)
- 三上 春夫 (昭57)
- 滝口 伸浩 (群馬大・昭59)

千葉医学98巻3号 2022年6月

最終講義に代えて

多彩な皮膚科の未来に向かって

松江弘之

原著短報

頰椎環軸関節偽痛風 (Crowned dens syndrome・CDS) 84例の検討

長井仁美

学 会

第1445回千葉医学会例会・臓器制御外科学教室談話会

第1450回千葉医学会例会・第21回呼吸器内科例会

(第35回呼吸器内科同門会)

編集後記

花澤豊行

第97回千葉医学会学術大会

編集方針ならびに投稿規定

Chiba Medical Journal

Chiba Medical Society Award Review

Tau PET imaging study to elucidate the pathogenesis of neurodegenerative disorders and facilitate drug discovery process

Hitoshi Shimada

Editorial Policy and Instructions for Authors

千葉医学98巻4号 2022年8月

話 題

医学用語語源対話 IX

杉田克生 池田黎太郎

学 会

第1446回千葉医学会例会・令和3年度内分泌代謝・

血液・老年内科学例会

第1458回千葉医学会例会・第39回千葉精神科集談会

編集後記

岩瀬博太郎

第97回千葉医学会学術大会

第14回(2022年度)千葉医学会賞・奨励賞 受賞者決定

Chiba Medical Journal

Original Article

Skeletal muscle mass and clinical findings to evaluate the effectiveness of one-stage surgery in tandem spinal stenosis

Masaya Mizutani, Yawara Eguchi, Sumihisa Orita, Kazuhide Inage, Yasuhiro Shiga

Satoshi Maki, Junichi Nakamura, Shigeo Hagiwara, Yasuchika Aoki

Masahiro Inoue, Masao Koda, Hiroshi Takahashi

Tsutomu Akazawa, and Seiji Ohtori

Case Report

Parkinson's disease and spinal long fusion in a patient who required bilateral revision surgery for irreducible dislocation of total hip arthroplasties in rapidly destructive coxarthropathy: a case report

Jumpei Shoda, Junichi Nakamura, Shigeo Hagiwara, Yuya Kawarai

Sumihisa Orita, Yawara Eguchi, Kazuhide Inage, Yasuhiro Shiga

Yoshihiro Sakuma, and Seiji Ohtori

編 集 後 記

第190号のあのはな同窓会報をお届け致します。本号も、私達あのはな同窓会員の姿を後世に伝える貴重な資料となることでしょう。

コロナ禍勃発から3年が経ち、ようやく収束の目処が見えてきました。同様の災禍であったスペインかぜの災禍も収束には3年が必要でした。すでに、欧米ではマスク着用の姿は見られなくなったことと、

ので、じきに本邦も同様の態勢になることと思われま

ずのパンデミックは第一次世界大戦中に起

きたために、多くの情報が歪められ、残されていませんでした。振り返れば、病原体は違っても、少なくとも社会・経済に与えた影響は同じだったように思えます。人類が、過去の情報を活かせていたのだから、収束はもう少し早かったのかもしれない。

「千葉大学医学部旧本館・85年の記憶」が完成しました。筆者も編集に関わり、過去の記録が散逸していたことを残念に思いましたが、それ以上に、残っている記録さえも、当事者の記憶を正確に伝えることが難しいということを感じました。本

キュメンタリーは、人物に焦点を当てて解析することを得意とするディレクターに制作をお願いし、正確な記憶を再現した至高の作品となりました。少しでも医学部本館(旧病院)で過ごした経験のある会員であれば、涙腺が弛んでしまう感動の大作であります。本号が、「85年の記憶」と同様に、人類の記憶に残るコロナ禍収束の年における同窓会員の元氣な記憶をお伝えできましたなら幸いです。

白澤 浩 (昭57)

— 会報190号編集委員 —

諏訪園 靖 (平6) 編集委員長

杉田 克生 (昭54)

白澤 浩 (昭57)

今野 慎 (昭62)

宍戸 忠幸 (山梨医大・平8)

飯沼 克博 (昭55)

剣持 敬 (昭58)

小島 広成 (平3)

大西俊一郎 (平17)

(敬称略)

ご住所・ご勤務先等に変更がございましたら

あのはな同窓会にご一報ください。

電話 (043) 202-3750

FAX (043) 202-3753

e-mail: info@inohana.jp